

Faculty

第4回FD研修会報告書

2008. 8

Development

FD委員会

金沢学院短期大学

目次

開催にあたって	学長 石田寛人	・・・1
・ 大乘寺・坐禅研修の報告	平木孝志	・・・2
・ 平成 19 年度私立大学教員の授業改善白書についての説明	岡島 厚	・・・7
・ 授業における工夫	野村孝弘	・・・19
・ 授業における工夫	小林淳一	・・・33
・ 第 4 回 F D 研修会質疑・討論		・・・44
閉会の辞	F D 委員長 岡島 厚	・・・47
資料		
資料 1 平成 20 年度前期 授業改善のための学生アンケート集計結果		・・・48
資料 2 第 4 回 F D 研修会参加者アンケート集計結果		・・・57

開催にあたって

FD - 大学教員の資質開発の活動

学長 石田寛人

Faculty Development (ファカルティ・ディベロップメント) とは実に多岐にわたる活動である。この言葉を日本語で表現すれば、「大学教員の資質開発」ということになるだろうか。さらに具体的には、「教員が授業の内容や方法を改善し向上させるための取り組み」と説明され、「個人個人の取り組み」はもちろん大切であるが、特に「組織としての総合的な取り組み」を表現する場合に、この言葉が用いられる。近年、FDという略号が、文部科学省や大学で頻繁に用いられている割には、世間にはほとんど知られておらず、パソコン辞書ではFDという言葉の説明が出てこないし、最近、偶然に見た若者向けのテレビ番組では、FDとは「フケが出ていること」だと言っていたのには驚いたが、それはともかく、教育機関としての大学の使命を果たして行くのに、FD活動が極めて重要視されてきているのは、当然とは言え、当を得たものと考えている。世の中の多くの方々にも、大学の中ではこのような地道な活動が行われていることを知って頂きたいと思うが、その前に大学人がさらにFDに注力することが重要であろう。

大学、短大における教育期間は、学部4年間、短大2年間と限られているのに対して、教育内容は広範多岐になってきている。この限られた時間を、いかに有効に使って、学生の力が伸びるような仕組みを作り上げるか。これはわれわれの大きな課題である。全体により効率的な講義や実習が求められているのかも知れないが、効率性ばかりの追求では、FD活動の真の目的には到達できない。明治維新の功業をなした人々を輩出した吉田松陰の松下村塾は、僅か3年しか存続しなかったことに思いをはせれば、教育期間の長短よりも、それにかかわるものの努力と心構えが教育の効果に決定的な役割を果たすことは明らかである。

金沢学院短期大学では、FD活動に懸命に取り組んでいる。まだ手探りの部分もあるが、いろんな事例を研究しながら、この活動の目的に向かって着実に前進している。私もそのために、できる限りの努力をしたいと思っている。



・ 大乘寺・坐禅研修の報告

平木 孝志



大乘寺・坐禅研修の報告

坐禅研修の経緯

第2回FD研修会において「本学の授業方法をいかに改善するか」のグループ討論がなされた。授業改善の根幹に関わる「礼節の改善」についての提案があり、解決策が具体的に討論された。いくつかの改善に向けた意見交換のなかで「坐禅の体験」の意見が出され、具体的行動計画として検討された。

目的

本学の教育理念に基づき、人間らしく生きていくために伝統文化を学び、ふるさとを愛する心と、礼節をわきまえることが極めて大事である。

坐禅の体験により、調和して真実の自己を見つめ、心身共にもっとも安定し、生活改善に役立てることを目的とする。

「坐禅」の効果

坐禅は釈尊が悟りにあたって行なったのが始まりとされ、心の安定・精神統一を達成するために行なわれてきた修行法の一つである。道元禅師は「調和して真実の自己を確立することができる」と坐禅を特に重んじた。近年の科学的研究では、坐禅中の脳波を調べたところ、ベータ（)波に混じって、リラックスしているときに出る脳波アルファ（)波が出ることがわかっている。

坐禅研修日程

- ・ 研修日時 : 平成20年8月4日(月)午前10時~11時半
- ・ 研修場所 : 東香山 大乘寺 (石川県金沢市長坂町ル-10)
- ・ 研修内容 : 大乘寺住職 東 隆真氏による法話/坐禅(30分間)
- ・ 参加者 : 学生 105名:教職員 16名
- ・ 移動方法 : 本学スクールバス

アンケート調査・結果

坐禅の体験を、今後の教育・研修の参考にするため、参加学生の率直な感想のアンケート(質問15)を実施した。なお、アンケート結果は「大乘寺・坐禅研修アンケート集計グラフ」にまとめ、第4回FD研修会資料集に掲載し報告した。

参加学生の感想

アンケート調査以外に「坐禅で感じたこと、印象に残ったことは何か」の質問には数多くの自由回答・感想があった。詳細は第4回FD研修会資料集に掲載。

全体として

- ・ 坐禅は精神統一にとってもいいと思った。
- ・ これを続けることで集中力がつきそうだと思う。

- ・少しでも日本のことに触れて学べた良い機会でした。
- ・日本の伝統文化を大切にしたいと思いました。
- ・正しい姿勢を保つことが大変でした。
- ・坐禅を組むのは、足がしびれて大変だった。

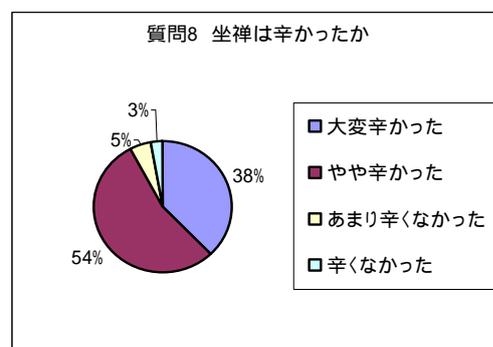
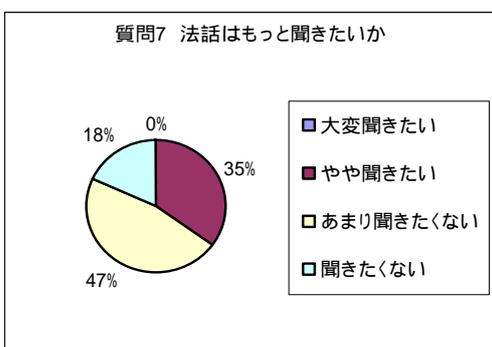
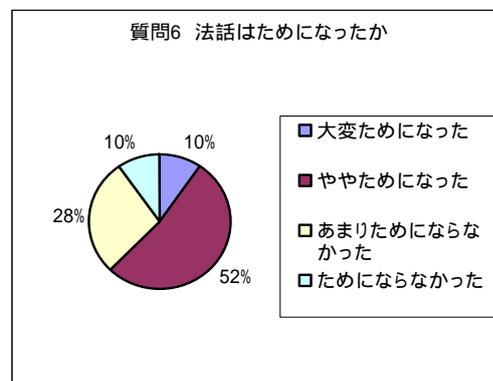
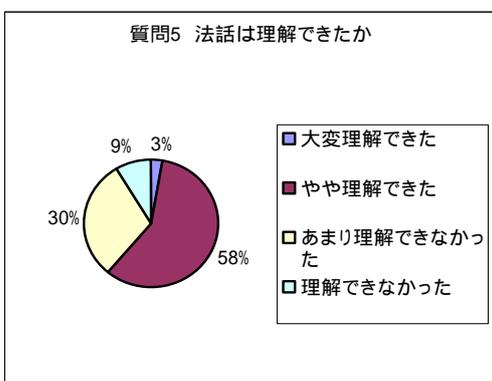
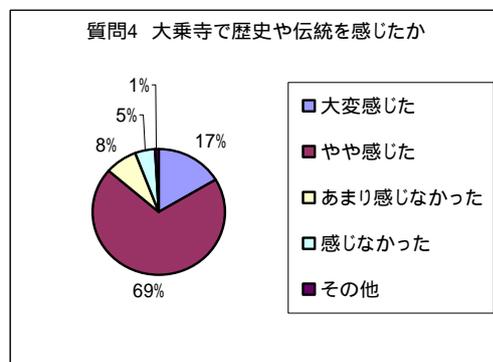
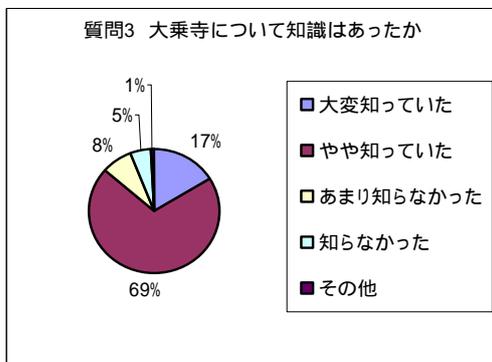
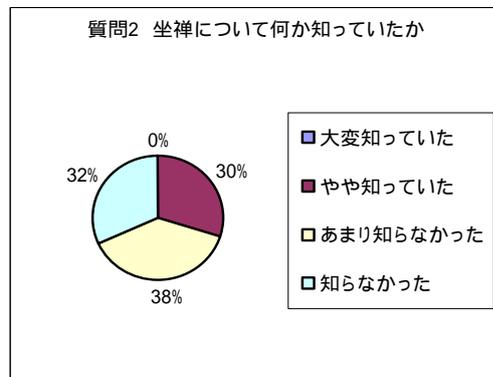
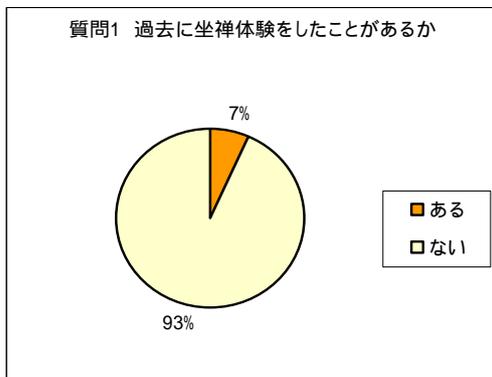
研修の成果

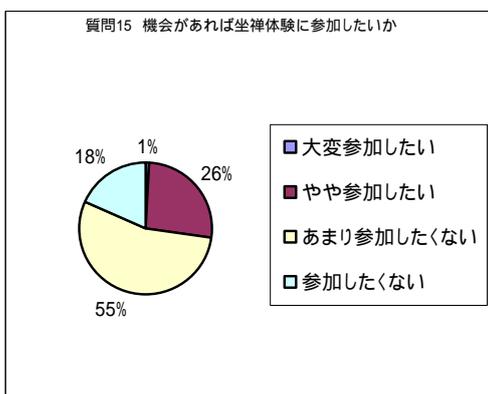
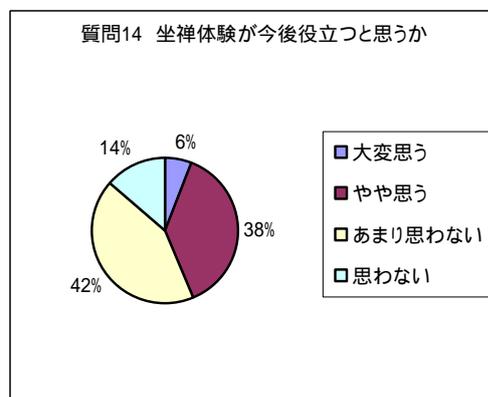
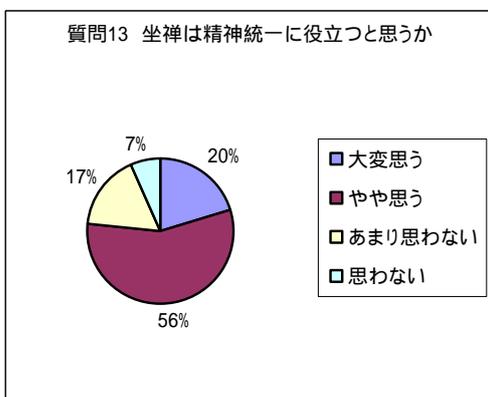
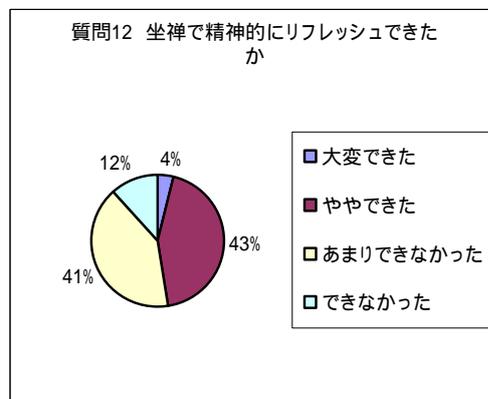
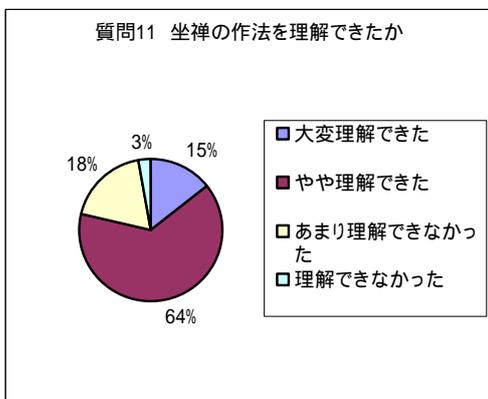
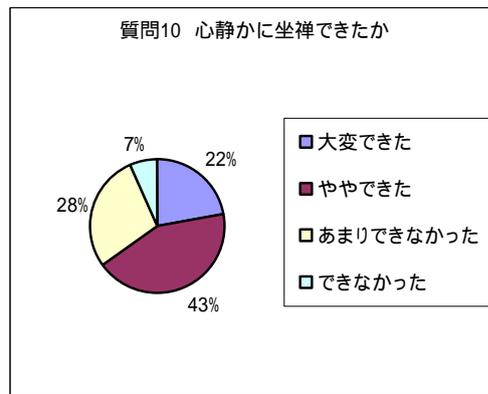
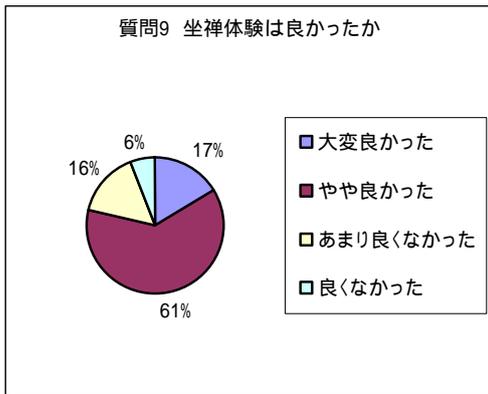
参加学生の92パーセントが「坐禅は辛かった」と回答しているが、法話はためになった。坐禅体験は良かった。精神的にリフレッシュできた。今後役に立つと思う。など、今回の研修は参加学生にとっては新鮮で良い体験になったようである。また、静寂につつまれた大乗寺での法話や坐禅体験は、伝統文化に興味の無い学生にとっても日本文化の奥深さを理解するきっかけとなったと思います。

(平木 孝志)



【資料】大乗寺 坐禅研修アンケート集計グラフ





平成19年度私立大学教員の 授業改善白書についての説明

岡島 厚



平成19年度私立大学教員の授業改善白書（平成20年5月(社)私立大学情報教育協会）の説明

まえがき

平成20年5月に(社)私立大学情報教育協会から「私立大学教員の授業改善白書」公表された。その概要を説明して、今後の本学のFD活動の参考にさせていただきたい。「平成19年度私立大学教員の授業改善白書」は、(社)私立大学情報教育協会(本学は未加入)に加盟している大学・短期大学における助教以上の全専任教員を調査対象として、今回125校1806名(48.4%)の回答を得て集計した結果を白書として公表された。

調査項目は、次の事項について、数項目の詳細な質問事項を挙げて回答を得ている。

1. 授業で直面している問題点
2. 授業改善に向けた今後の努力・対策
3. 授業でのIT活用状況
4. 先進的な授業事例の紹介
5. 情報技術の使用効果と問題点
6. 効果を高めるための今後の改善策

本研修会では、その資料に沿って各事項について説明するが、アンケート結果は大学と短期大学に区別して集計されているので、ここでは短期大学に関する集計結果に注目して述べる。

1. 授業で直面している問題点

(1) 学生に関する問題点：【基礎学力がない】が、65%近く最も多く、大学より多く、全国的にも深刻な問題となっている。次いで、【学習意欲がない】35%、【教員の言葉を理解できない】19%である。白書のコメントとして、高校教科の未履修であれば、大学の補習授業で対応できるが、例えば初等の数学や読解力の不足は、補習授業以前の問題として授業を進める上で大きな障害となっており、「初年次教育などによる組織的な対応」が急がれると問題提起をしている。

(2) 教員自身について：

【動機付け・学習意欲を高める工夫が難しい】という回答が47%で最も多く、次いで【授業設計、授業技術の工夫が必要】40%弱で、また一教員では解決が難しく、【関連教科との密接な連携】を希望しており、FD活動の重要性がここにある。

(3) 大学全体について：

【組織的な教育・学習支援に対する「人、物、金」がない】が40%以上、【教育の質保証に対する危機意識が低い】が、30%以上である。白書のコメントとして、「これらの課題は、FD以前の問題であり、大学が持つべき基本的な教育目標を共有化し、意識合わせを大学の責任の下で進めることが重要である」としている。

2. 授業改善に向けた今後の課題

(1) 教員自身による努力：

【学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい】が80%に達しており、【授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい】が55%である。この項目については、本学において当日、アンケートを実施した。巻末にその集計結果を載せるので参考にされたい。

(2) 大学として取り組むべき課題：

組織をあげて対応すべき課題は、【人材育成を職務とする教員の意識改革、教育目標の共有化】と【職員の職能開発と教育・学習支援体制・環境の整備】を5割の近くの教員が重視している。他方、講義と体験を組み合わせたカリキュラムの導入が4割近い。知識偏重型の教育から達成感や自己実現力などの人間基礎力の向上を目指した教育を求め、3割の教員が【教育力の再開発】を意識していることは、注目される。

(3) FDの実効を高める対策：

FDの普及は8割以上の大学で実施され、一般的になっている。

そしてFDの内容・方法を見ても一方通行的な講演型のスタイルが多く、問題点を議論するような討論形式、教育技法や情報技術などの体験する実質的なFDは極めて少ないことが指摘されている。その点、本学のFD活動は、早くから後者の形態をとっており、FD活動が益々進展し、大きな成果を挙げるのが期待される。

(4) 一大学では解決できない課題：

【FD事例のアーカイブ化】、【分野別FD研究】、【産学連携の教育支援】などが望まれるが、本学では、大学コンソシアム石川のFD活動を通じて解決方法を探ることも考えられる。

3. 授業でのIT活用状況・活用の仕方

授業にITを活用する教員は、19年度調査では短期大学では3年前より7.2%増加し、48.2%に増加した。そしてその活用の仕方は、現状は情報検索、教材作成、教育情報の掲載が主であるが、2年後の21年には、授業録画を含めた自学自習の計画、【理解困難な理論のアニメーション化・映像化】、【理論と実際の映像によるマッチング】など映像を駆使したITの活用による現実感覚の創出、ネットを通じた授業評価の収集などを計画している教員が多い。しかしいずれも膨大な予算を伴う大きな事業であり、教員側の希望と大学側の対応には大きなズレが生じていることは、数多くの大学で見られる難題である。

4. 先進的な授業事例の紹介

(生活・家政系、美術系など)

現在：被服学 『生活情報論』

(アパレルデザインにおいて、デザイン展開例や現場の様子などを画像や映像で見せることで実際

の衣生活を見る視点を養う。)

将来：美術系 『絵画実習』(海外の大学などとネット上の作品発表と交流を行う。)

5. 情報技術の使用効果

ITの利用効果は、【授業に刺激を与えることが出来た】が60%を超えている。また、【学習の動機付けの向上】、【プレゼンテーション力の向上】、【学習意欲の向上】を2、3割の教員が効果を認めている。しかし残念ながら、「【成績向上】に役立った」は、僅3%で、直接的に結びつかない理由は何であろうか。

6. 効果を高めるための今後の改善策

そこでITの利用効果を高めるための今後の改善策がいろいろ提案されている。

改善策の例：学びの重要性の説明：インターネットから社会で役立つ卒業生の実体験の紹介をする。

また、パワーポイントの使用の際は、必ず、メモを取らせる工夫をするなどのIT利用するときは、必ず新しい教育方法の工夫をしなければならないことを忘れてはいけない。

まとめ

(社)私立大学情報教育協会には本学は加入していないが、同協会から公表された「平成20年私立大学教員の授業改善白書」について概要を説明した。白書の結果は、今後の本学のFD活動の方向付けの参考にするとともに、本学の教員の意識動向とも比較することも重要である。

今回の研修会後に実施した「授業改善に向けた今後の課題」のうち「教員自身による努力について」のアンケート結果を次ページに示す。表から、91%の教員が【学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい】を第1の選択肢として挙げ、約6割が【授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい】を第2選択肢と回答しており、白書の結果と同一であるとともに、より顕著な結果であった。

全国的に眺めても、教員は、常に「学生の反応を捉え、理解度に応じた授業」を理想とし、「学習意欲を高めるような授業設計・運営するための工夫」に努力しているが、なかなか上手く行かないのが現状である。この問題こそFDの最大の課題であり、目標である。

(岡島 厚)

資料

平成19年度

私立大学教員の授業改善白書
平成20年5月(社)私立大学情報教育協会

についての説明

岡島 厚

 Kanazawa Gakuin College

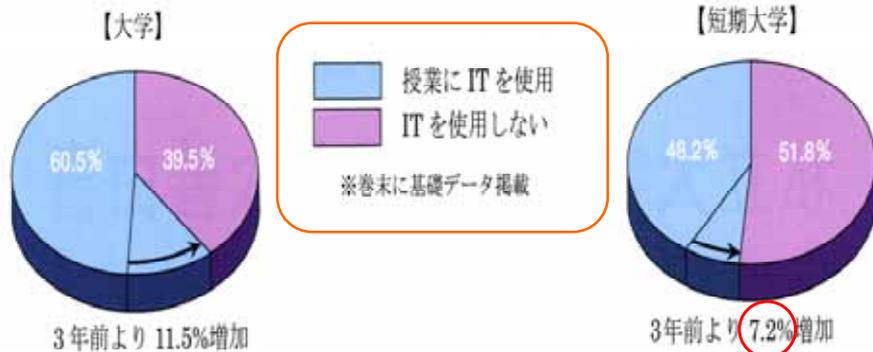
- 1 . 授業で直面している問題点
- 2 . 授業改善に向けた今後の努力・対策
- 3 . 授業でのIT活用状況
- 4 . 先進的な授業事例の紹介
- 5 . 情報技術の使用効果と問題点
- 6 . 効果を高めるための今後の改善策

 Kanazawa Gakuin College

調査対象 : 本協会加盟の大学・短期大学における全専任教員(助教以上)

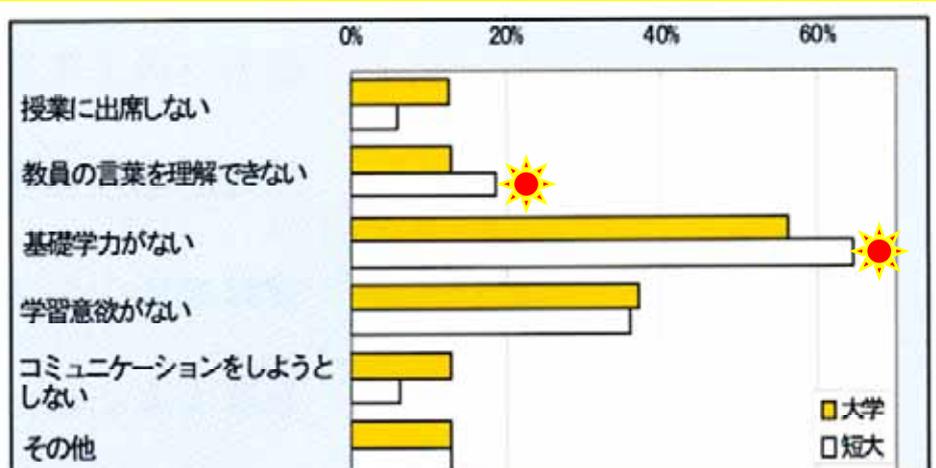
	調査対象		回答状況		回収率
大学	343校	65,903名	334校	21,797名	33.1%
短期大学	138校	3,731名	125校	1,806名	48.4%

《19年度調査回答者の内訳》



3

1-1 授業で直面している問題点：学生について



高校教科の未履修であれば、大学の補習授業で対応できるが、例えば初等の数学や読解力の不足は、補習授業以前の問題として授業を進める上で大きな障害となっており、初年次教育などによる組織的な対応が急がれる。

4

1-2 授業で直面している問題点：教員自身

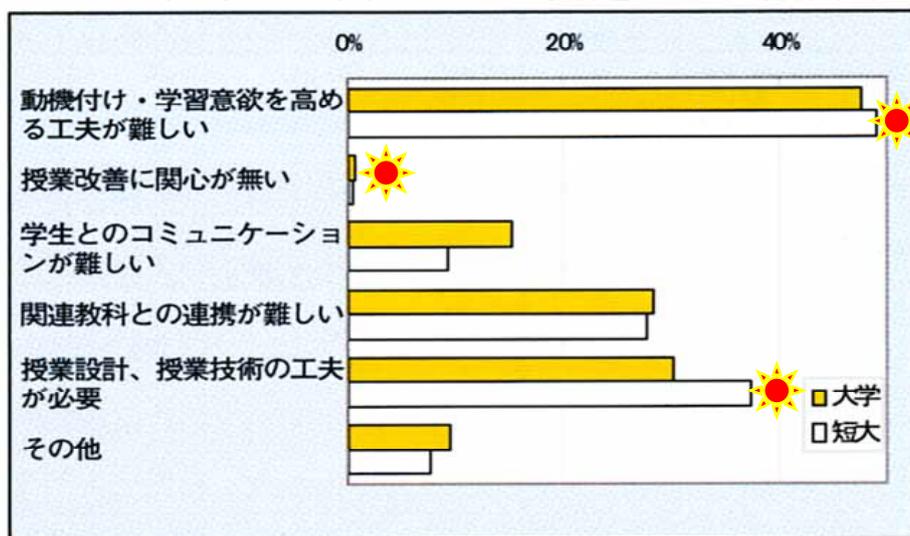
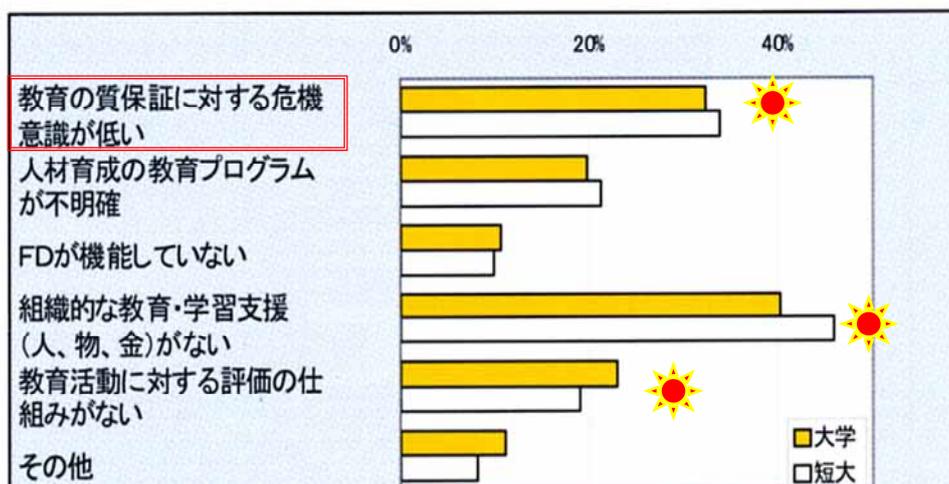


図2. 授業で直面している問題点【教員に関する問題】

5

1-3 授業で直面している問題点：大学全体



上記の問題は、FD以前の問題であり、大学が持つべき基本的な教育目標を共有化し、意識合わせを大学の責任の下で進めることが重要である。

6

2-1 授業改善に向けた今後の努力・対策：教員自身



7

2-2 授業改善に向けた今後の努力・対策：大学全体

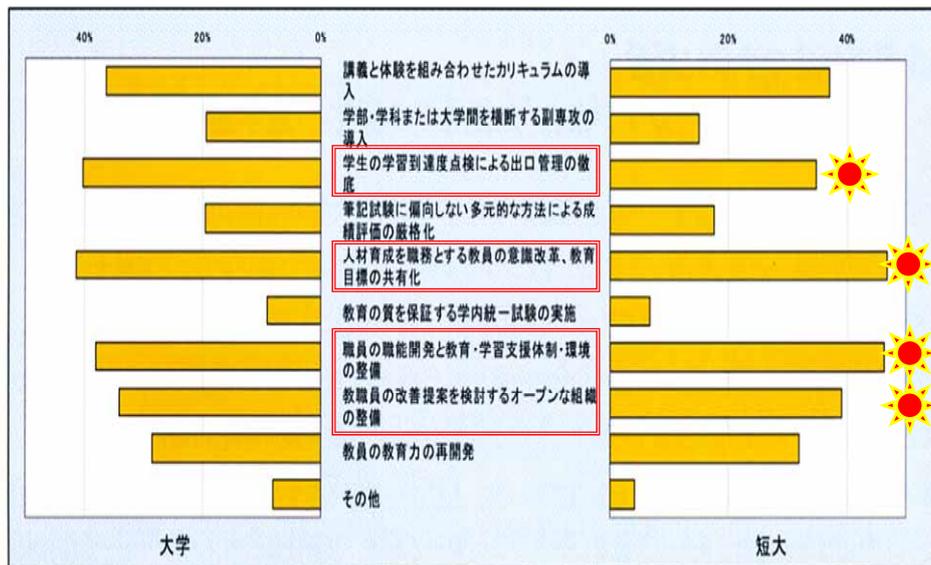
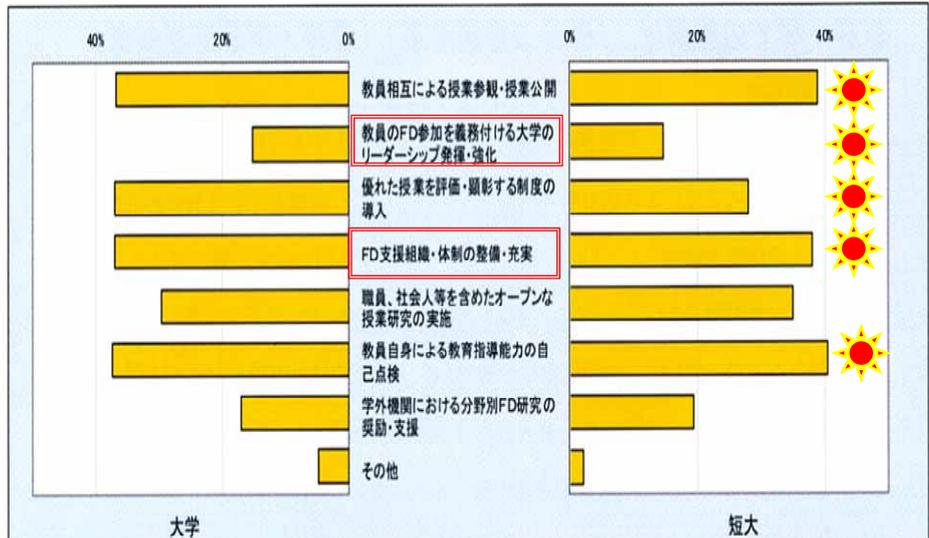


図5. 教育改善に向けた課題【大学として取り組むべき課題】

8

2-3 授業改善に向けた今後の努力・対策：FD実効性



FDの内容・方法を見ても一方通行的な講演型のスタイルが多く、問題点を議論するような討論形式、教育技法や情報技術などの体験する実質的なFDは極めて少ない。

9

2-4 授業改善に向けた今後の努力・対策

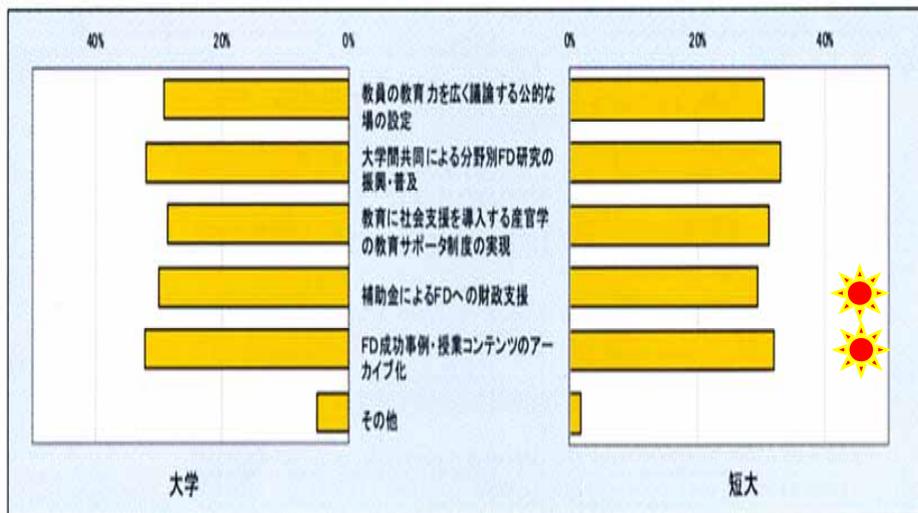


図7. 授業改善に向けた課題【一大学では解決できない課題】

10

3 授業でのIT活用状況 活用の仕方

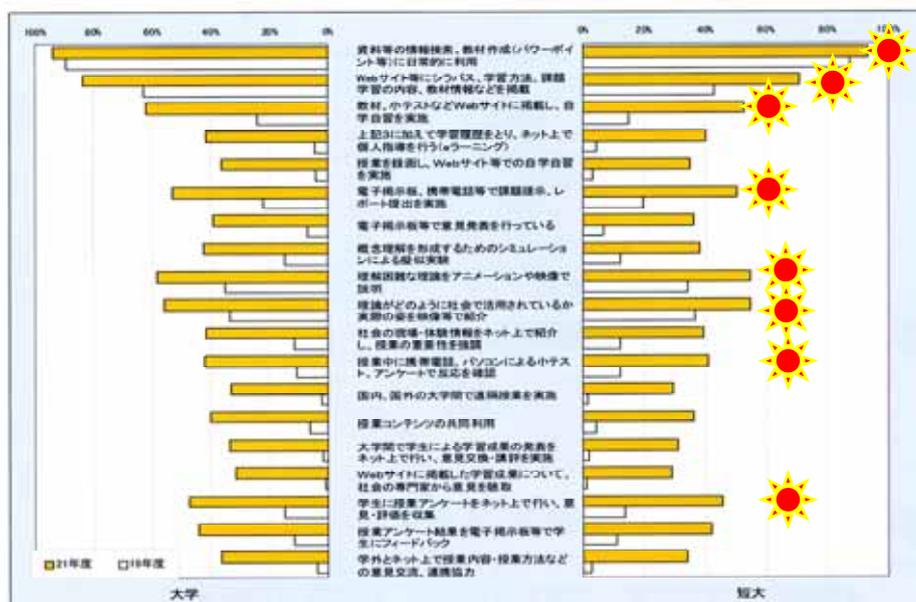


図8. 授業でのIT活用状況

11

4 . 先進的な授業事例の紹介

(生活・家政系、美術系など)

現在： 被服学 『生活情報論』

(アパレルデザインにおいて、デザイン展開例や現場の様子などを画像や映像で見せることで実際の衣生活を見る視点を養う。)

将来： 美術系 『絵画実習』

(海外の大学などとネット上の作品発表と交流を行う。)

資料集の20～28ページ参照して下さい

12

5-1 情報技術の使用効果

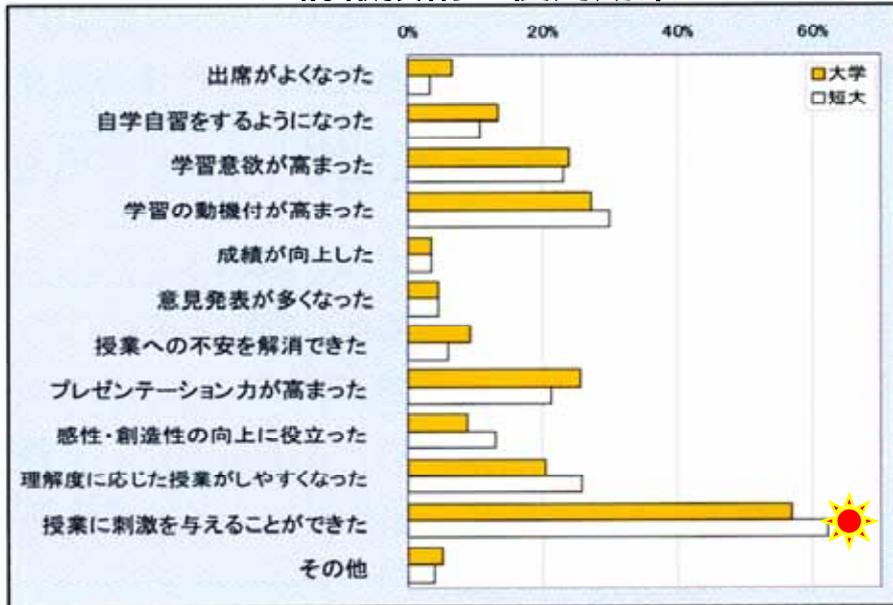


図9. 情報技術の使用効果【効果】

13

5-2 情報技術の問題点

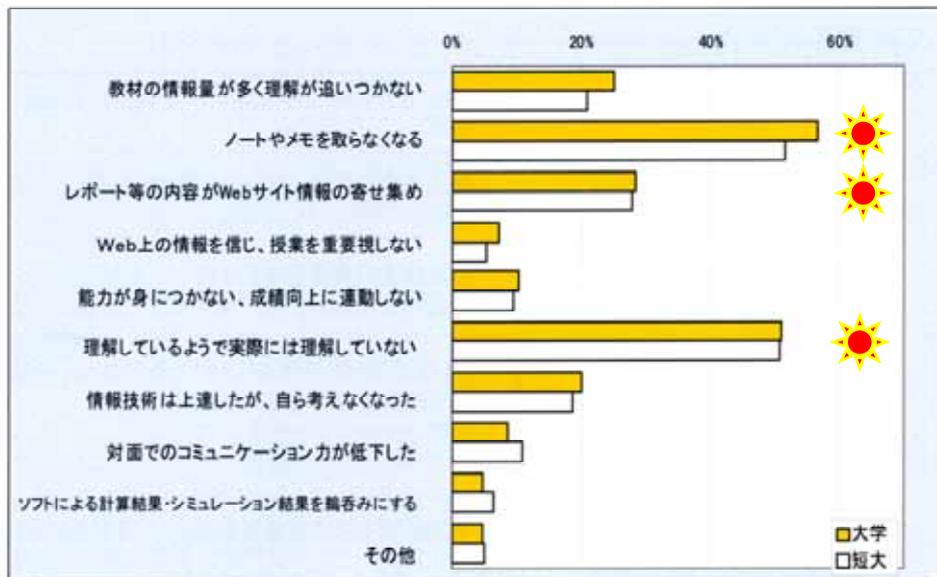
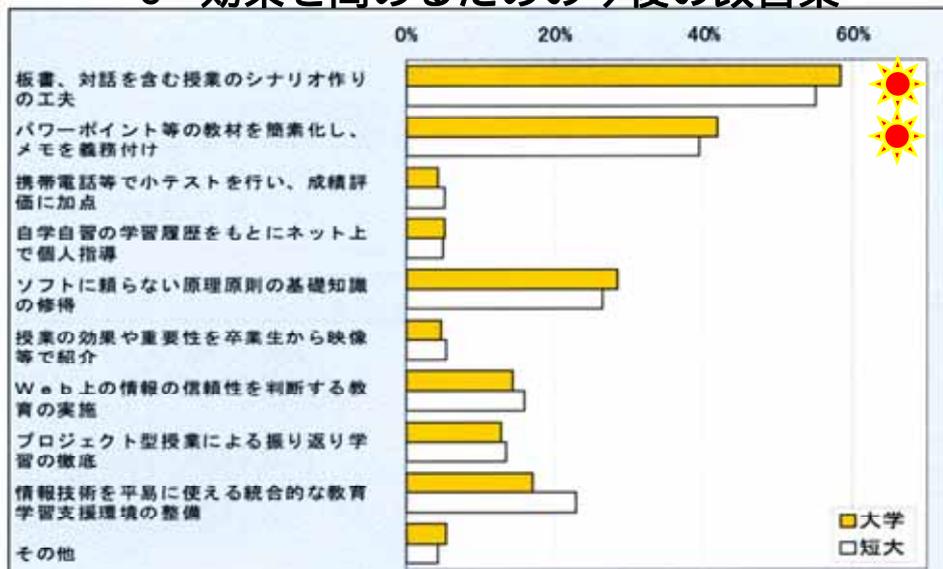


図10. 情報技術の使用効果【問題点】

14

6 効果をもとめるための今後の改善策



学びの重要性の説明：インターネットから社会で役立つ卒業生の実体験の紹介を。 パワーポイントの使用の際：メモを取らせる工夫を。

『平成19年度私立大学教員による授業改善調査』 回答大学・短期大学一覧

32. 敬愛大学	153. 龍谷大学	324. 梅花女子大学	19. 千葉経済大学短期大学部	120. 福岡工業大学短期大学部
33. 清明大学	154. 創価大学	325. 沼田国際大学	20. 青山学院女子短期大学	121. 福岡学院大学短期大学部
34. 新徳大学	155. フェリス学院大学	326. 弘前大学	21. 大妻女子大学短期大学部	122. 福岡女子短期大学
35. 城西国際大学	156. 新潟経営大学	327. 東大版大学	22. 嘉悦大学短期大学部	123. 長崎外国語短期大学
36. 聖徳大学	157. 新潟国際情報大学	328. 南山学院大学	23. 実践女子短期大学	124. 別府大学短期大学部
37. 済和大学	158. 金沢学院大学	329. 伊能大学	24. 昭和女子大学短期大学部	125. 鹿児島国際大学短期大学部
38. 千葉科学大学	159. 金沢学院大学	330. 大分大学	25. 文京学院短期大学	
39. 千葉経済大学	160. 金沢工業大学	331. 関西国際大学	26. 女子栄養大学短期大学部	
40. 千葉工業大学	161. 北沢大学	332. 関西学院大学	27. 女子美術大学短期大学部	
41. 千葉商科大学	162. 福井工業大学	333. 千手薬科大学	28. 白梅学園短期大学	
42. 中央学院大学	163. 帝京科学大学	334. 甲南大学	29. 杉野学園短期大学	
43. 香川平成大学	164. 山梨学院大学	335. 甲南女子大学	30. 創価女子短期大学	
44. 東京歯科大学	165. 清泉学院大学	336. 神戶学院大学	31. 帝京大学短期大学	
45. 東京経済大学	166. 湯島東京理科大学	337. 神戸芸術工科大学	32. 戸板女子短期大学	
46. 了徳寺大学	167. 朝日大学	338. 神戸国際大学	33. 東海大学短期大学部	
47. 東洋学園大学	168. 岐阜経済大学	339. 神戸国際女子学院大学	34. 東京家政大学短期大学部	
48. 了徳寺大学	169. 岐阜聖徳学園大学	340. 神戸学院大学	35. 東京成徳短期大学	
49. 龍谷大学	170. 中央学院大学	341. 神戸女子大学	36. 東京農業大学短期大学部	
50. 和洋女子大学	171. 中央学院大学	342. 神戸薬科女子大学	37. 東京工科大学短期大学部	
51. 青山学院大学	172. 東海学院大学	343. 神戸山手大学	38. 日本大学短期大学部	
52. 大妻女子大学	173. 静岡美術学院大学	344. 聖和大学	39. 日本歯科大学東宮崎短期大学	
53. 桜美林大学	174. 静岡産業大学	345. 麗澤大学	40. 山崎実業芸術短期大学	
54. 聖悦大学	175. 静岡文化芸術大学	346. 龍谷大学	41. 山梨学院短期大学	
55. 学習院大学	176. 静岡理工科大学	347. 兵庫大学	42. 立教学院短期大学	
56. 学習院女子大学	177. 豊後リハビリテーション大学	348. 武蔵川女子大学	43. 相模女子大学短期大学部	
57. 北里大学	178. 愛知大学	349. 流通科学大学	44. 湘北短期大学	
58. 高立薬科大学	179. 愛知医科大学	350. 慶応大学	45. 東海大学医療保健短期大学	
59. 杏林大学	180. 愛知学院大学	351. 帝塚山大学	46. 龍谷大学短期大学部	
60. 愛知学院大学	181. 愛知学院大学	352. 天理大学	47. 文政大学女子短期大学部	
61. 奈良女子短期大学	182. 愛知工業大学	353. 奈良大学	48. 横浜創英短期大学	
62. 工学院大学	183. 愛知淑徳大学	354. 奈良産業大学	49. 日本歯科大学新潟短期大学	
63. 國學院大学	184. 愛知東邦大学	355. 岡山理科大学	50. 基督女子短期大学	
64. 国際基督教大学	185. 桜花学園大学	356. 吉備国際大学	51. 山梨学院短期大学	
65. 国土学院大学	186. 金澤学院大学	357. 金澤芸術科学大学	52. 済美学院短期大学	
66. 駒澤大学	187. 南山学院大学	358. 東海大学	53. 岐阜医療技術短期大学	
67. 実践女子大学	188. 大同工業大学	359. ノートルダム清心女子大学	54. 中津学院大学短期大学部	
68. 芝浦工業大学	189. 中央大学	360. 信天大学	55. 中日本自動車短期大学	
69. 順天大学	190. 中央女子大学	361. 北信山大学	56. 静岡高等学校短期大学部	
70. 上野大学	191. 中経大学	362. 広島経済大学	57. 愛知大学短期大学部	
71. 昭和大学	192. 昭和大学			

・ 授業における工夫

野村 孝弘



1. 目的

どのようにして栄養士に必要なことがらを教えるか。

-----栄養学は応用科学（Applied Science）である。-----

1) 科目と問題点（課題）・・・・・・・・・・何のために何を教えるのかを明確にする。

栄養士養成には大学・短大で教えるべきガイドラインとしてコアカリキュラムがある。各種教科書はほぼこれに添っている。つまり、国家資格を与えるにはそれなりの内容達成が社会的に要求されていて、達成度の低い学生を輩出することは本人にもよくないことを示している。この達成のために漫然と教科書を読んでも学生はついてこないし理解できない。問題はそのなかで何を教えるかである。内容の趣旨をよく汲み取って教授することが必要である。例えば食品学は生体成分化学の一部で、教科書は化学のことは書かれている。しかし元素記号も知らない学生に化学式をならべても理解しがたいことは目に見えている。ここで翻って考えてみると、全成分の化学式を覚えていることが栄養士にとって本当に必要であるのだろうか。必要なことは化学式を全て覚えていることではなく、一部については知っている必要があるが、他の多くの成分については応用のために化学的に理解していれば済むのではないだろうか。目的は化学式の暗記ではなくその成分の化学的理解にすれば、ベースのない学生も化学式の呪縛から解放され、多くが得心できる科目にすることができる。

教員に求められているものはこの「何のために何を教えるのか」を考えることであろう。これをつめて行くと、栄養学とは正に応用科学（Applied Science）であるということに行き当たる。この観点から栄養士に求められるものを抽出すると、

1. 基礎知識。
2. 考える力。
3. 応用する実践力。

の総合力であると考えられる。そこで、改めて教育科目を見てみると、

2) 教育科目は大きく3種類があって、その目標は次のように理解出来る。

1. 講義科目：座学 ----- 知識、それも基礎的知識を与える。
2. 実験科目：基礎学的実践科目 ----- 考える力を与える。
3. 実習科目：応用的実践科目 ----- 応用する実践力をつける。

するとガイドラインの目標が理解でき、教育目標はおのずから定まる。

3) 私の担当科目は次の様である。

本科 講義科目・・・食品学、生化学
 実験科目・・・食品学実験、生化学実験

専攻科 講義科目・・・生化学特論、栄養生理学 I、食品機能分析学
演習科目・・・バイオサイエンス演習 I、バイオサイエンス演習 II、
特別研究 I、特別研究 II

(演習科目は講義科目と実験科目が混交したもの。)である。

そこで各科目の「何を教えるか」の目標から、どのように教えるかの思案も出てくる。

2. 教科教育における工夫

ここでは本科のみを例として示す。(専攻科では研究面を重視し、本科の内容に立脚してより高度に重層したものにしている。)

1) 教科教育上の留意点-1

講義科目(知識の習得): 食品学、生化学 ----- 暗記より概念の理解に力点を置く -----
化学式が分からなくても成分分子の概念を理解できるように。

- ・食品学; 出来るだけ化学式を覚えなくて済む化学 ----- 教科書の化学式をイラスト化して成分の構造や性質の概念を説明する。

これらを行うには、

説明イラストを適切にしないと理解不能になる。= 自己満足的イラストは禁忌。

- ・生化学; 栄養になるとはどういうことか ----- 教科書以外のプリントも使って代謝経路を説明。解糖系のメインストリートはなぜ重要か。何がどのように変わって行くのか、ビタミンの関係も含めて全体の概念を理解できるように。

これらのことを行うには、

教科書とプリントを併用する。分かり易い図を取って来て説明できる。が教科書どうりには進まない。プリントをもらっただけでは読まない聞かない学生がいる。教員は沢山の教科書を読まなくてはならない。

実験科目(考え方の習得): 食品学実験、生化学実験 ----- 力点は自然科学 ----- 科学的に考え、論理的に考察出来る人間(一人前)になれるように。

予め15回のスケジュール全部を学生に示す。3~5回を1クールにして考え方に習熟するよう配慮する。安全で、それなりの結果が得られる実験を計画する。

テキストは全てプリント、手技は毎回の実験前によく説明する。= 遅刻の厳禁。実験は5~6人のグループで行う。しかし、レポートは各自が自分の力で自分の考えを書く。従って、合議して同じ文章を書いた場合は評価しない。

結果の整理やレポートの書き方も事前に説明する。----- レポートは人に読んでもらって評価を得るために書くもの。メモではない。故に期日までに提出しなければならない。遅れたレポートの評価は低くなる。学生にはレポート評価が低いと再試験(一回分の実験をテキストだけで一人で行う)になること、再試験になると合格率が低下することを予め周知しておく。

学生から提出された全てのレポートを精読し、コメントを書き込み、評価を入れて学生に返却する。コメントを使って科学的な考え方を個別指導する。学生の考察は自由になるが、脱線しないように方向性もコメントで個別指導する。自分で調べて考察したレポートは高評価にして返却する。学生は評価とコメントを見せ合って競い合うようになる。よいレポートを書く努力をするようになる。

これらのことを行うには、

1. 実験計画の良非は授業の成否にかかわる。十分に練った計画をたてる。
2. 先生の知りたいのは諸君の頭の中。= 科学的な思考ができるかどうか、が重要であることを周知する。
3. 次回の授業でレポート返却するには、全てのレポートを1週間以内に読んでコメントし、評価をしなくてはならない。
4. 学生は返却レポートを見せ合って教員の評価を批評することになる。故、評価について学生の信頼を得ていなくてはならない。評価法をオープンにして公平さが分かるようにしなくてはならない。学生に迎合しても信頼は得られない。そのために注意することは、次の留意点-2と思われる。

3. 学生に対する姿勢

留意点-2：（もし自分が学生だったら・・・。学生だった時、好感を持たれた先生の姿勢を思い出すと分かり易い。）

- ・ 学生に威張らない。----- 指導・相談は筋道立ててする。学生も自分と同じように分からない（自分は分かっていると思うな）。
- ・ 学生には親切である。----- きめ細かく指導する。質問には出来る限り即座に応じて一緒に考える。
- ・ 学生一人一人を評価する。----- 学生をマスとして扱わない。
時には名前をしっていることが邪魔になることもあるが・・・。
- ・ 評価は公平である。----- 外見、態度などでの予断は禁物。
- ・ 学生を一人前として扱う。----- 学生を甘やかさない。
- ・ 学生は先生（の人格全て）を評価している。----- 学生に迎合しない。
学生に甘えない。 一歩離なれて客観性を保つ。
- ・ 学生間でも評価し合っている。----- 学生は学生を意識して、学生を評価して競争する。（自分は正当に評価されたいと思っている。）
- ・ 何事もオープンにする。----- 評価方法をはじめ、何でもオープンにする。
ただし、学生の人格を傷つけないよう十分に留意する。
学生の質問に答えられない場合もごまかさない。何時までも調べて返答すると態度を明確にし、必ず実行する。

4. 教育効果

化学式に対する嫌悪感、アレルギーが薄まったように思う。

化学式なしでも少しは分子構造をイメージするようになったように思う。

多くの学生で単位 (g, mg, ml, mg/ml, etc.) の意味が理解されるようになった。

単位とスケールを正しくとってグラフを書けるようになった。

自分のことばで文章を書くようになった。日本語の表現が出来るようになった。

目的、方法、結果、考察を区別して、全体を順序立てて表記出来るようになった。

5. 質問と応答

Q1 ; 時間は十分に有るか。(勤務時間中に全部できるか。)

講義科目について; 科目ごとに講義ノートを作って進めている。そのため教科書どうりには進まないこともあるが、講義のための予習は時間ごとに必ず行い、内容にメリハリのある講義にしている。講義ノートは毎回の講義時の反省で見つかった問題点を加筆訂正し、3~4年で改訂することを心掛けている。複数の教科書その他を調べて比較してプリントの改訂など丁寧なことをする時間的余裕はない。

レポート添削について; 時間は足りない。レポートを読んで、公平に添削して評価をするのにはレポートあたり最低5~8分必要で、複雑な実験と考察の場合では15分かかることもある。従って、学生数100人では全てのレポートを添削・評価するのに500~1500分、時間にすると概ね週10時間以上レポートの精読とコメント書きに使うことになる(時には20時間近くになることもある)。これを全て時間外にやらなくてはならないので大きな負担である。(時間内で行おうとすると、絶対時間が足りない

上に雑務が多く、学生が訪ねて来たり、電話の対応などで集中できない。集中出来ないと評価の公平性は保ち難くなる。) 切実なのは急な学生数増で、クラスも増えるとなると単純な負担増ではなく、コマ数が増えてレポート返却までの時間は短くなり、学生当たりにかける時間はどうしても減って十分な指導が出来なくなる。

これらの理由および次の研究についての理由から時間的余裕は全くない。以前、1学年3クラス体制で実習だった時に平行して論文執筆をしていて、かなり疲労を覚えて労働時間を計算してみたところ、週80時間を超えていたことがあった。

Q2 ; 研究は出来るか。(研究時間はあるか。)

研究時間は非常に足りない。私の時間割表を見ると、4限までの週の空きコマ数7、授業コマ数13である。これ以外に委員会、講義準備、試薬作りを含む実習準備、その上にレポート採点を行うと残時間はほとんどない。それでも、学内外との共同研究や専攻科学生との共同研究(実際には指導研究)によって少しずつだが進めてはいる。その結果、本学に赴任して以来毎年1報は査読のある国際誌に論文掲載をしているし、米国化学会の機

関誌その他の学会誌に投稿された論文の review (査読) も年間数報こなしている。論文執筆も査読も多くの時間と神経を使う (特に後者はボランティア) が、研究者としての責務とと思っている。研究は与えられた環境のなかで出来得ることしか出来ないが、しなければ何も出来ない人間になってしまう。大学教育では研究活動がないと諸事理解が浅くなり、十分な内容のある教育はできない。機械器具その他の環境も考慮すると、内外と共同しての研究は必須である。しかし現下の時間的環境ではいつまで続けられるか体力的に自信はない。勤務時間内に少しでも多くのことが出来るように環境整備をすることは、研究環境をよくし、教育内容をよくする大変重要な課題と思われる。

Q3 ; プリントの著作権は大丈夫か。

教科書その他に掲載された化学式や図などは科学的に証明された公的なもので、著者のオリジナルなものではない。個人の経済活動に使うのではなく、教育目的にその一部の化学反応図やその機序説明の解説図を複製して使うことは商業誌に掲載された科学論文でも認められている。

Q4 ; 学生は理解するか。

全てではないにしても、かなりの学生が不十分ながら講義内容を理解するようになったと思うし、理解しようと努力するようになったと思う。なかにはほぼ完璧に理解する学生も現れるようになった。また実験科目でも、全てではないにしても多くの学生が自

分の力で考えて、自分のことばで表現して考察を書くようになった。最初の頃には日本語もおぼつかない、また濃度単位の何たるかも知らない学生がいたことを思うと1年間で長足の進歩があったと思う。ただ、何時まで経っても自覚がない学生がいることも事実である。しかし、多くの場合他の学生からの評価によって、そのような学生にも少しずつ自覚が芽生えて来るように見受けられる。評価をオープンにして学生どうしが鍛え合うようにすることが自覚をうながす近道なのかも知れない。

(野村 孝弘)

参考 ; 使用スライド (Power Point 図)

栄養士に求められるもの

マスから個へ

応用科学 (Applied Science)

知識

考える力

応用する実践力

栄養士(国家資格)



管理栄養士

食物栄養学科の教育科目(本科)

講義科目：座学。1ユニット(90分)=2単位。知識の習得。

食品学、生化学、解剖生理学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養指導論、調理学、……
(…健康維持や…栄養状態の判定法…の基礎知識…について学習し…)

実験科目：基礎学的実践科目。2ユニット(180分)=1単位。考え方の習得。

食品学実験、生化学実験、解剖生理学実験、食品衛生学実験、調理科学実験、……
(…実験は…応用の基礎をなすもので…意味をどれだけ理解しているか…)

実習科目：応用的実践科目。2ユニット(180分)=1単位。方法と応用の実践。

ウェルネス栄養学実習、調理科学実習、給食経営管理実習、臨床栄養学実習、……
(…実践的な学習によって…食生活に対応できる力を…実践する能力を習得する)

教育科目

本科

- 1年 (食品学Ⅰ x1)、 生化学 x2
- 2年 食品学実験 x3、 生化学実験 x3

専攻科

- 1年 生化学特論 x1、 栄養生理学Ⅰ x1、
食品機能分析学 x1
- 2年 バイオサイエンス演習Ⅰ x1
バイオサイエンス演習Ⅱ x1
特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ

留意点-1 (本科)

(教える立場から考えると)

講義科目：(食品学)、生化学。 知識の習得。(90分)2単位。

理解に力点を置く・・・化学式が分からなくても化学はできる

食品学； 出来るだけ化学式を覚えなくて済む化学

・・・教科書の化学式概念をイラスト化して説明

生化学； 栄養になるとはどういうことか

・・・プリントで代謝経路を図説、何がどう変るのか、関わるビタミンは？

実験科目：食品学実験、生化学実験。 考え方の習得。(180分)1単位。

自然科学である・・・科学的に考え、論理的に考察を出来るよう

・予め全体のスケジュールを示す (安全であること それなりの結果が得られること)

・3～5回を1クールにして考え方に習熟するよう

・結果の整理法やレポートの書き方を説明する (先生の知りたいのは諸君の頭の中)

・レポートは人に読んでもらって評価を得るために書くもの

・毎回の実験手技はプリントで示し、毎回の実験前によく説明・・・遅刻の厳禁

・全てのレポートを精読し、コメントを書き込み、評価を入れて学生に返却

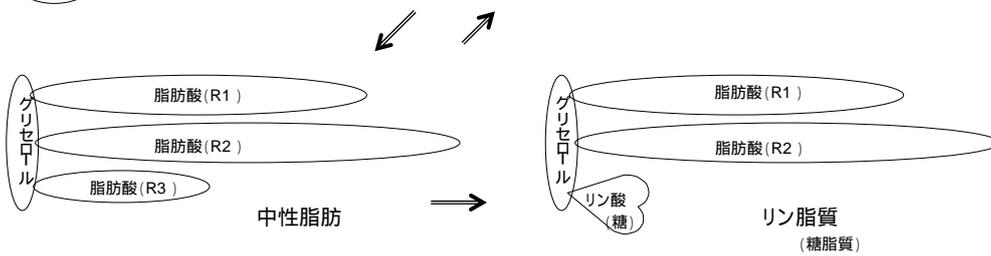
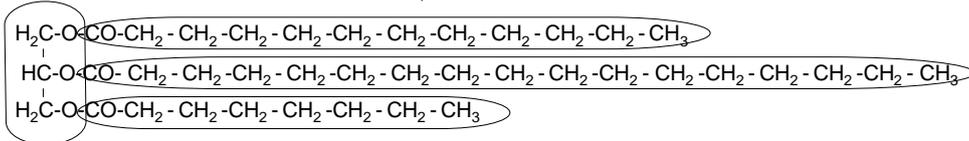
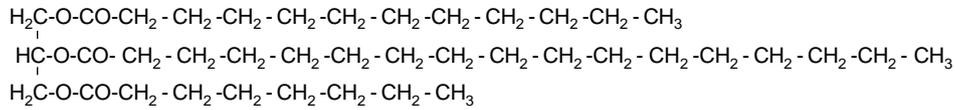
・コメントで科学的な考え方を指導

・自分で調べて考察したレポートは高い評価

理解に力点を置いた解説例-1

食品学 I

脂肪の分子 (中性脂肪)



プリントの例 (講義科目)

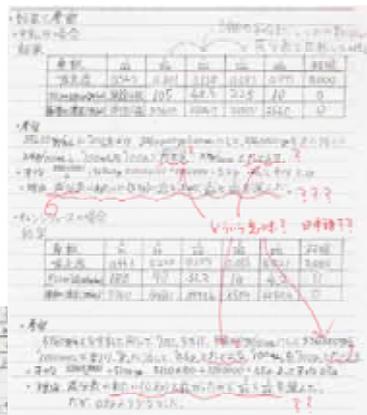
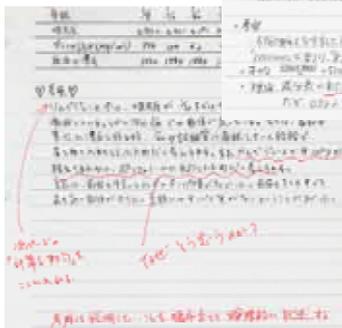
生化学

解糖・栄養成分はどのようにして栄養になるのか・栄養学の理論的基礎

プリントはいろいろの本から取ってくる

実習レポート例 -1

コメント例

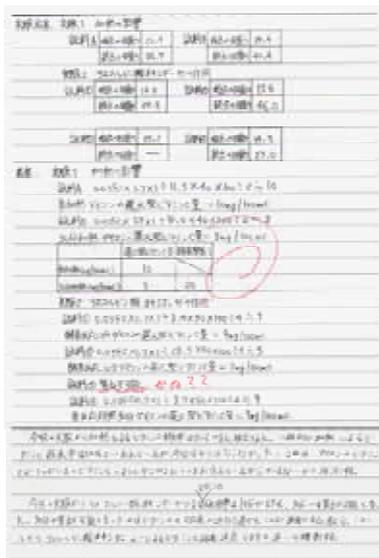


レポートは評価を入れて返す(次回)

実験の意味や方法を把握・理解し、自分たちの結果を正確に示し、そこから導き出されることを順序立てて自分のことばで説明する。そのための指導コメントを入れる。

実験にはそこから学習してほしい意図がある・・・実験の意味
 科学的で論理性的のある考察 高い評価
 意図の外のオリジナリティのある考察 高い評価

実習レポート例 -2



実習レポート例 - 3

⇒

同一学生のレポート変化
(2ヶ月の指導効果)

The image displays two sets of student lab reports. The left set shows a student's initial work, characterized by less organized handwriting and a graph with unclear axes and data points. The right set shows the same student's work after two months of guidance, featuring more structured text, clearer handwriting, and a graph with well-defined axes, labeled data points, and a smooth curve. An arrow points from the initial report to the improved one, highlighting the positive impact of the guidance.

実験科目の評価例

	レポート	実験	レポート	実験	レポート	実験	レポート	実験	レポート	実験	レポート	実験	レポート	実験	レポート	実験	レポート	実験
高橋	2071103	A+	A	A+														
高橋	2071106	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
高橋	2071120	A+	A	A+														
高橋	2071124	B+	B	B+														
高橋	2071130	B+	B	B+														
高橋	2071132	B+	B	B+														
高橋	2071134	B+	B	B+														
高橋	2071136	B+	B	B+														
高橋	2071138	B+	B	B+														
高橋	2071140	B+	B	B+														
高橋	2071142	B+	B	B+														
高橋	2071144	B+	B	B+														
高橋	2071146	B+	B	B+														
高橋	2071148	B+	B	B+														
高橋	2071150	B+	B	B+														
高橋	2071152	B+	B	B+														
高橋	2071154	B+	B	B+														
高橋	2071156	B+	B	B+														
高橋	2071158	B+	B	B+														
高橋	2071160	B+	B	B+														
高橋	2071162	B+	B	B+														
高橋	2071164	B+	B	B+														
高橋	2071166	B+	B	B+														
高橋	2071168	B+	B	B+														
高橋	2071170	B+	B	B+														
高橋	2071172	B+	B	B+														
高橋	2071174	B+	B	B+														
高橋	2071176	B+	B	B+														
高橋	2071178	B+	B	B+														
高橋	2071180	B+	B	B+														
高橋	2071182	B+	B	B+														
高橋	2071184	B+	B	B+														
高橋	2071186	B+	B	B+														
高橋	2071188	B+	B	B+														
高橋	2071190	B+	B	B+														
高橋	2071192	B+	B	B+														
高橋	2071194	B+	B	B+														
高橋	2071196	B+	B	B+														
高橋	2071198	B+	B	B+														
高橋	2071200	B+	B	B+														

評価方法

講義科目

態度点; 25点

出欠点25点・・・欠席する毎1回5点減点

受講態度点減点・・・態度の悪さに応じて全体より減点(最大10点)

試験点; 75点

期末試験; 100点満点の試験結果を75点に圧縮

不合格 再試験; 80点満点で60点合格、合否判定には態度点を加味しない

(食品学 I ; A ; 22%, B ; 52%, C ; 26%)

実験科目

態度点; 35点

出欠点25点・・・欠席する毎1回5点減点

実験態度点10点・・・実験態度についての評価点

レポート点; 65点

レポート評価c ~ a⁺⁺ (e)を数値化し、その総計を65点に圧縮

不合格 再試験; 既に行った実験の中から指定する実験を行う(学生が選択)。

実験操作と提出レポートで合否判定(60点合格)

・ 授業における工夫

小林 淳一



報告趣旨

1. 目的

本報告は、現在の金沢学院短期大学における学生集団の特色に注目して、2008年度前期講義で試みた授業の工夫とそのメリット/デメリットを紹介するものである。

2. 金沢学院短期大学における学生集団の現状と実態

1) わが国の全体的な傾向

- ・ 2007年の大学全入学時代を契機とした、学生の学力低下ならびに学力格差
- ・ 卒業後の進路が具体的かつ明確な学生と、いわゆるモラトリアム学生との意欲格差
- ・ 学び方や研究の仕方のわからない学生の増加

2) 本学の学生集団の全体的な傾向

- ・ 90分の授業形式に集中力が持続しない学生
- ・ 教員との距離がある学生(高校までの学校経験)
- ・ メモの取り方がわからない、講義概要の要約ができない学生(高校までの学校経験)
- ・ 女子学生の多い教育環境

3. 学生集団の現状と実態を踏まえた授業改善のキーワード

・ 格差

基礎学力や学ぶ意欲の格差が大きい学生集団に対する教授方法の工夫

・ 学び方の教授：

高等教育機関で学び、研究することの意味と方法についての理解

・ 関心と意欲の喚起

専攻とする教科以外(主として教養科目)における授業改善の工夫

・ 時間管理

90分の講義時間に対して、集中力の持続しない学生への配慮

・ 信頼関係

学生一人ひとりを理解する意識と方法

4. 授業改善の工夫紹介(具体例は当日資料参照)

- 1) 「リアクションシート」の活用
- 2) 10分程度の時間短縮
- 3) 授業の導入部分での発展課題
- 4) 中間アンケートの実施

5. まとめにかえて

- ・ 「優しさ」と「甘さ」を混同しない意識。
- ・ 個別指導を鼻根と誤解されない配慮。
- ・ 意欲的な学生を失望させない授業観。
- ・ 授業内容の工夫を実践で伝える信念。
迎合ではなく意識改革を促せる教育の実現を目指す。

当日の質疑応答

【質疑】今回の授業の工夫に対して時間的な負担は？また、研究との両立は可能か？

【回答】放課後・部活終了後・休日に時間を確保して実践しているが、研究との両立は困難なのが実情である。しかし研究も教育も不可欠の要素であり、努力しなければならない。

なお、詳細は「 .第4回FD研修会質疑・討論」に所収。

参考:使用スライド(Power Point 図)

(小林 淳一)

Faculty

授業における工夫

生活デザイン学科
小林 淳一
Development

1

2008年度前期における小林の事例

基礎英語
対象:短大1
形式:講義
選択2単位
教職選択必修

教職論
対象:食栄1
形式:講義
選択2単位
教職必修

教育学
対象:食栄2
形式:講義
選択2単位
社会指導主事任用資格選択必修

総合演習
対象:食栄2
形式:演習
選択2単位
教職必修

情報と文化(コミュニケーション)
対象:デザインコース2
形式:講義
選択2単位

2

本学学生集団の実態と特色

- 2007年の大学全入学時代を契機とした、学生の学力低下ならびに学力格差
(参考:地方大学女子学生の学力格差)
 - 東高校公開授業参観報告にみられる、メモを取れない生徒・学生の増加
 - 将来を具体的に意識する学生と、いわゆるモラトリアム学生との意欲格差
 - 90分の授業形式に集中力が持続しない学生
 - 教員との距離がある学生(高校までの学校経験にもよる)
 - 女子学生の多い教育環境
- キーワード:
格差・学び方の教授・関心と意欲の喚起・時間管理・信頼関係

3

授業改善の工夫紹介

1. 「リアクションシート」の活用(平成17年度前期より実施)

概要:

全ての授業でリアクションシートを配布し、「講義の感想」「質問・要望」「自由記述」を記入するように指示する。なお、講義終了後のリアクションシート提出を出席の条件とし、記入状況で普段点に加点を伝える。個々の質問内容に関しては、次時の授業で必ず返答する。

ねらいとこれまでの効果:

- 授業で常に文章を書かせる意識を植え付ける。
- メモを取る意識と方法を学ばせる。
- 学生個々を把握するとともに信頼関係を構築する(特に自由記述の部分)。

4

- 「質問・要望」に必ず返答することで、学習意欲を高める。
- 遅刻学生にリアクションシートに印をつけて渡すことで、確認時間を短縮できる
- 自身の教授方法の反省ができる。
- 「浮きこぼれ」学生の把握と発展課題の提示ができる(後述)

短所と今後の課題

- 授業と関係の無い記述ばかりのときの指導について。
- 授業中に質問する意識を阻害している。
- 授業ノートと混同し、板書を記入して提出する学生がいる。
- 記入速度に個人差があるため、授業の終了方法が困難なことがある。

5

Reaction Sheet

- **科目名:**
- **Number:**
- **Major:**
- **Date:**
- **Name:**
- **講義の感想**
- **質問・要望**
- **自由記述(気付いたことがあれば何でもどうぞ)**

6

2. 10分程度の時間短縮(平成19年度前期より実施)

概要:

チャイムと同時に教室に入り、10分ほど短めに設定した終了予定時間を黒板に書く。全ての学生が以下の授業妨害

- 私語をしない
- 居眠りをしない
- 携帯をいじらない
- 他の課題をしない
- 雑誌を読まない
- 飲食をしない
- 無断で席を立たない

ことが守れたら授業を早く終わると約束する。一人でも注意されたら時間一杯授業すると伝え、相互補助を奨励する。

7

ねらいとこれまでの効果:

- 10分程度の短縮でもそれなりの効果がある(特に5時間目)。
- 教師が注意をしなくても、周囲の学生が注意してくれる。
- 毎時実施することにより、「今日は何時に終わるのか?」と黒板に注目するため、授業開始の導入の部分で注意を引き付けることができる。

短所と今後の課題

- 「私語をしない」と「授業中発言してはいけない」ことを勘違いする学生がいる。
- 実際に授業妨害(特に居眠り)をした場合、フォローが難しい。

8

3. 授業の導入部分での発展課題(平成17年度前期より実施)

概要:

リアクションシートに寄せられた質問のうち、特に浮きこぼれ気味の学生が提出した質問をシラバスとは別に20分程度講義する。

ねらいと効果:

- 授業レベルが合致しない学生が、高い意識を保てる。
- 教科書通りの教授内容ではないので、他の学生も関心を持って聞くことができる。
- シラバスの内容とは別の話題を提供するので、授業に変化が付けられる。

短所と今後の課題:

- 発展課題を質問した学生が不在(遅刻・欠席)の場合の配慮。

9

4. 中間アンケートの実施(平成17年度前期より実施)

概要:

「授業改善のための学生アンケート」とは別に7回目の授業終了後にアンケートを実施する。9回目の授業の際にデータを還元し、後半の授業に活用することを伝える。

ねらいと効果:

- 授業方法・内容に学生個々の意見が反映していることを意識させる。

短所と今後の課題:

- 「アンケート」慣れする学生への指導
- 「授業の充実」ではなく「楽な授業」を求める学生への指導

10

中間アンケート(内容は毎年・全ての講義で統一)

履修前に関して(自由記述)

1. 本講義を選択したきっかけは何ですか？
2. 本講義に期待していたことは何ですか？

授業内容・評価方法

(5段階)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の目的・目標は明確に説明されていましたか？ 2. 本授業はシラバスに沿って計画通り展開されていましたか？ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価の方法(出席&テスト2回で総合判断)は納得できるものでしたか？ 2. 教員は熱意を持って本授業を担当していましたか？ 3. 本授業はわかりやすかったですか？ 4. 本授業は適切な準備がなされていましたか？ 5. 理解を深めたり、興味を持つための工夫がされていましたか？ |
|---|---|

11

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 6. 本授業の時間管理は適切でしたか？ 7. 本授業を他者(友人や先輩など)に勧めたいと思いますか？ 8. 担当教員の本授業以外の科目を受講したいと思いますか？ 9. 担当教員は受講生の質問に答える努力をしていましたか？ 10. 授業妨害をする学生に対して適切な対応をしていましたか？ | <ol style="list-style-type: none"> 11. 本授業の内容は関心を持てるものでしたか？ 12. 教員の言葉は明瞭で聞き取りやすかったですか？ 13. 板書は明瞭でわかりやすかったですか？ 14. 授業のレベルは適切でしたか？ 15. 授業で用いる教材や話題のレベルは適切でしたか？ |
|--|---|

12

16. 遅刻・欠席の確認は適切でしたか？
 17. 特定の学生にひいきせず、公平な授業でしたか？
 18. 本授業は受講する価値がありましたか？
- ・受講生個人の関心
(5段階)
1. あなたは本授業に積極的に取り組みましたか？
 2. 本授業を受講して、あなたは新しい知識や物の見方が広がりましたか？
 3. あなたは本授業に関する予習・復習をしましたか？
 4. あなたの出席率を自己評価するとどう思いますか？
 5. あなたの遅刻状況はどの程度でしたか？
 6. 本授業の内容があなたの日常や将来に活きますか？

13

- ・自由記述
1. 本授業であなたが影響を受けたこと／印象に残ったことは何ですか？
 2. 本授業／担当教員に改善してほしいことは何ですか？
 3. 本授業／担当教員に対する意見や要望がありましたら、余白に自由に書き込んでください。
- 補足説明：
- ・原則記名方式(無記名も可)
 - ・意見や質問は、直接相談 リアクションシート メール連絡のいずれも可。
 - ・教員の読み上げのもと、一斉方式で一問ずつ回答(所要時間は自由記述まで含めると30分程度)。
 - ・データの還元は授業中に20分程度用いて口頭で説明。

14

まとめにかえて

- 「優しさ」と「甘さ」を混同しない意識。
- 個別指導を臆慮と誤解されない配慮。
- 意欲的な学生を失望させない授業観。
- 授業内容の工夫を実践で伝える信念。

迎合ではなく意識改革を促せる教育の実現を目指す。

第4回FD研修会質疑・討論



「坐禅研修、授業における工夫について」

岡島：毎回チェックした実験レポートのコメントに対して、学生はどのように反応（対応）しているのか？ レポート作成が上達した例が示されていたが、他の学生や、他の授業でもそういう効果がみられるのか？

野村

返却されたレポートに記された指導コメントについて教員や助手に問い合わせたり、高い評価を受けた学生のレポートと比べて参考にしたりしてレポートを修正し、まとめ方が進化していく。学生に毎回レポートの評価結果を明示す相乗効果は大きい。今回示した変化の事例は、特に指導効果の大きかったケースの一つである。

藏角：挨拶習慣や学生の行動規範は入学直後の指導が大切であり、入学の時点でもっと「礼節」をはじめ教育方針を明確に示してはどうか。

槻木（文学部）：教員は研究者でもある。学生に課したレポートやコミュニケーションシート全てに目を通し、コメントを記して返却するには授業外にもかなりの時間を要すると思うが、研究のエフォートはどのくらいか？ 研究の時間をどのように工夫しているのか？

実験レポートの作成に関して、学生相互の情報交換が効果を挙げているとあったが、上級生からの不都合な情報提供（介入）は無いのか？



野村

学生指導にほとんどの時間を奪われ、研究時間が取れないのが実情である。しかし、助手の協力も得て学生レポートの効率的な読み方を工夫して時間を捻出し研究にあてている。また専攻科生の指導（特別研究、論文指導）や外部研究者との連携の中で自らの研究を進めている。

学生同士の情報借用については、同じ実験データを共有するグループごとにレポートをチェックしたり、借用や模倣が見つけやすい方法を工夫して対処している。担当該当科目は2年生対象なので上級生はおらず、上の学年（専攻も含めて）からの情報提供はないだろう。また、準備する授業資料（テキストプリント）も毎年手を入れ、レベルアップを図っている。

小林

クラブ活動の指導もあり、なかなか研究の時間は取れない。その中でも時間を見つけ、深夜や休日出勤で博士論文をまとめている。幸い専門が教育学なので、授業実践が研究とリンクすることを狙いたい。

カニングム：いろいろなテキストから引用した図を組み合わせる授業資料（プリント）を作成する際、著作権のトラブルは発生しないか？

野村

営利目的ではなく、教育目的のみの限られた利用であり、出典も記している。

「学生による授業評価アンケート」について

二階堂：回答結果には、設問によって他の設問との関連がありそうな場合もあるのではないかと。クロス分析を試みてはどうか？

「質問がしやすい雰囲気か」という設問では、学生が牽制しあって授業中質問しないという現状が回答に反映されてしまうのではないかと？

藏角：同上アンケートの回答に明らかに不適切な記載が見受けられるように思われる。

岡島

本アンケートは平成20年度前期までで、同じ項目で3回行ってきた。今後に向けて意見をいただき、さらに検討していきたい。

全ての学生が真摯な態度で回答してくれることを願う。

【確認事項】(岡島FD委員長)

- ・ 坐禅研修はこれからも継続したい。

(河内 久美子)

閉会の辞

FD委員長 岡島 厚

第四回 FD 研修会には、石田学長を始めほぼ全員の教職員の方々が出席され、3 時間の長時間にわたって短大の教育方法改善について熱心に議論され、多くの有意義な成果を上げることが出来ました。

具体的には、

1. 平木孝志先生から報告のあった「大乘寺・坐禅研修」(平成 20 年 8 月 4 日実施)は、平木先生をはじめ学生委員会のご努力によって成功裏に終わりました。実施していただいた関係の教職員の方々には心から御礼申し上げます。大乘寺・坐禅研修は、第二回 FD 研修会のポストイットによるグループ討論において、本学の教育理念の一つ「礼節」教育の具体的行動計画として提案された 1 つである。今回の大きな成果から、来年度以降、定常的な大学行事の一つとして実施することとした。
2. (社)私立大学情報教育協会の「平成 20 年私立大学教員の授業改善白書」について岡島 FD 委員長から概要説明があった。FD 研修会の内容・方法は、一般に講演型が多く、問題点を議論するような討論形式、教育技法や情報技術などの体験する実質的な FD 形態は極めて少ないと白書に指摘されている。その点、本学は、早くから後者の形態をとっており、大きな成果を挙げることが期待される。
3. 授業において、本学の教員はいろいろな工夫を試みて努力している。その工夫の一端を、野村孝弘先生、小林淳一先生に紹介していただいた。野村先生は、実践科目における実習レポート指導のコツ、特に、赤ペンによる丁寧な添削指導によって大きな成果をあげていることを報告された。同様な形態の授業担当の教員には、大いに参考になった。小林先生は、授業ごとに書かせる先生自作の「リアクションシート(講義の感想、質問・要望、自由記述)」の活用によって学生とのコミュニケーションを深めるとともに学生の到達度に適した教育をすることに成果をあげていることの報告があり、「迎合ではなく学生の意識改革を促す教育の実現を目指している」という頼もしい決意を述べた。
4. 全体討論では、会場から教員における教育と研究の時間配分についての質問があった。両先生とも、教育のために研究が大切との認識のもとに苦心して研究時間を捻出していると述べられた。教育のために研究が犠牲になってはならないと考える。その他、種々な質疑・応答があり、3 時間にわたる第四回 FD 研修会を閉会した。

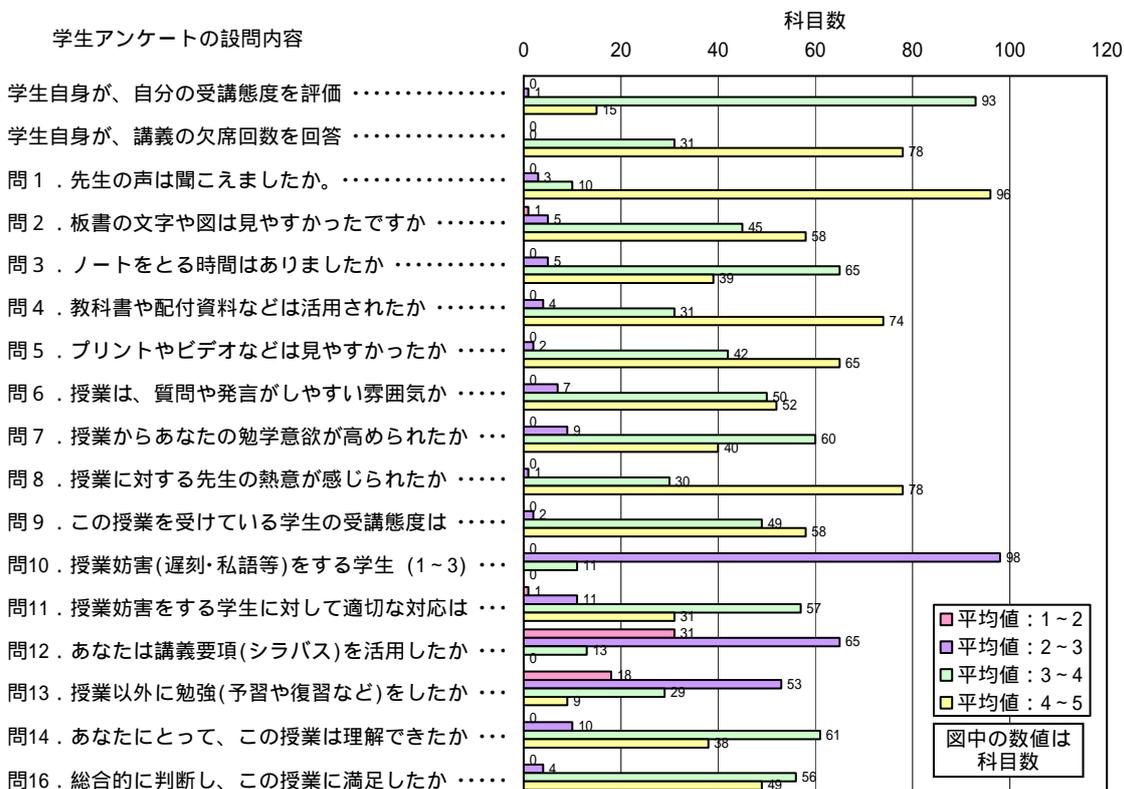
資料 1

平成 20 年度前期 「授業改善のための学生アンケート」 集計結果

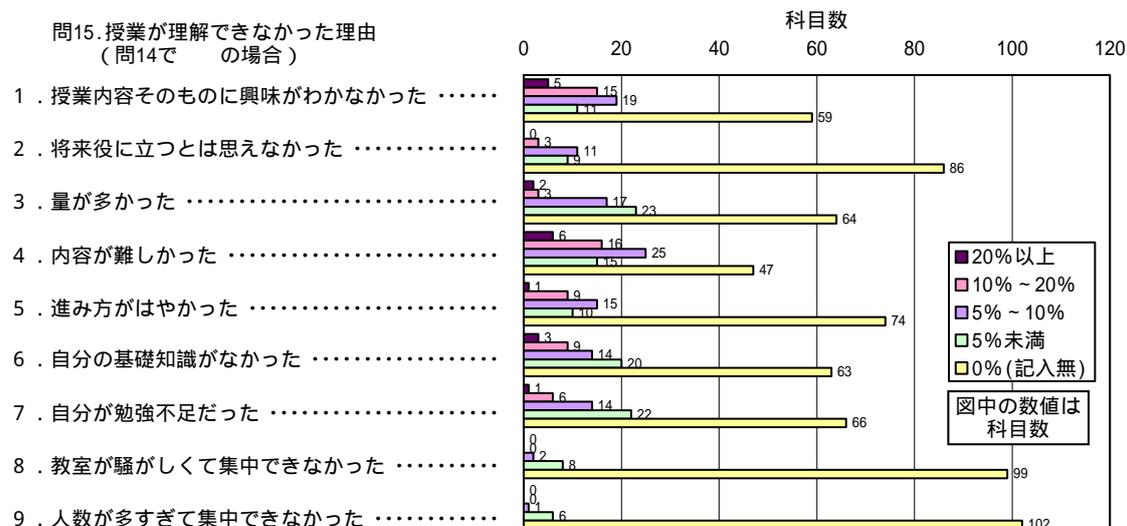
1. 平成20年度前期「授業改善のための学生アンケート」集計結果

金沢学院短期大学 平成20年度前期 授業改善のための学生アンケート
 科目数の分布結果：短期大学の全科目数=109科目

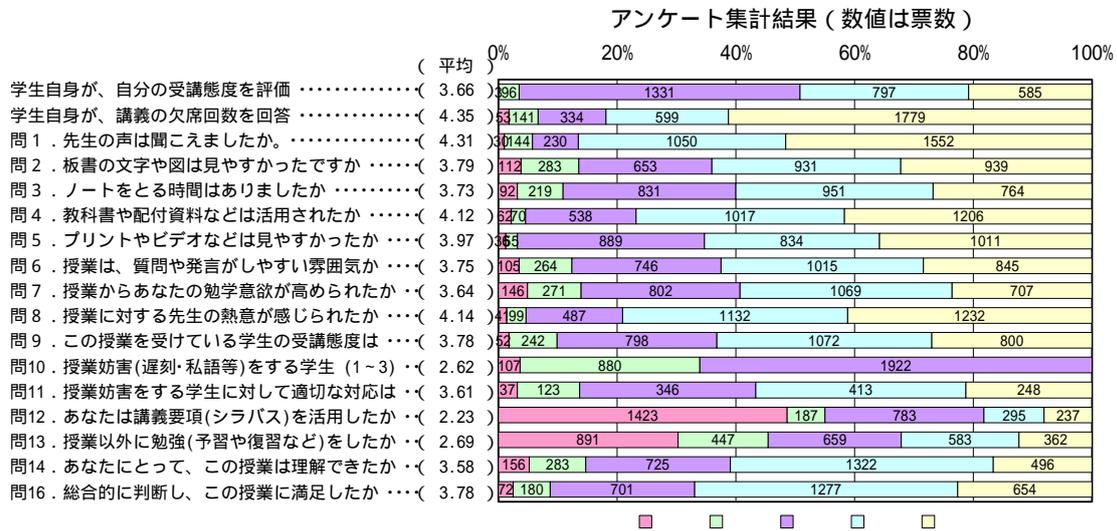
「設問（問1～問16）」ごとの「平均値（1～5）」に対する科目数の分布



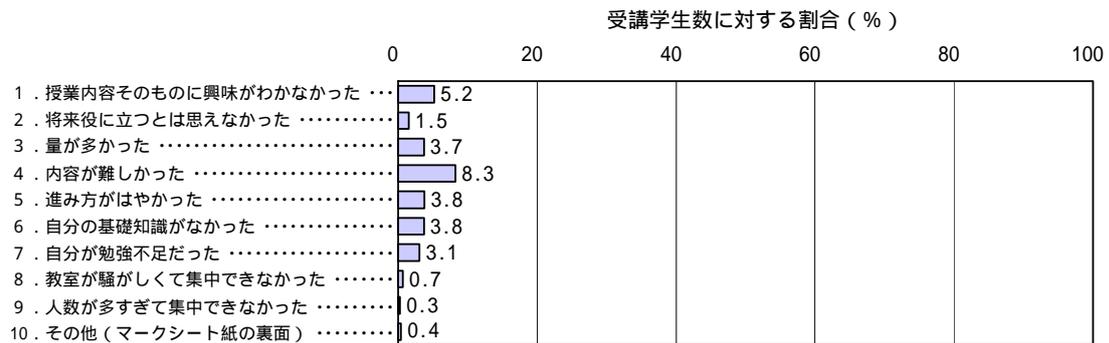
「授業が理解できなかった理由」ごとの「記入した学生割合」に対する科目数の分布
 参考：「記入した学生割合」は、受講学生数に対する記入した学生の割合(%)



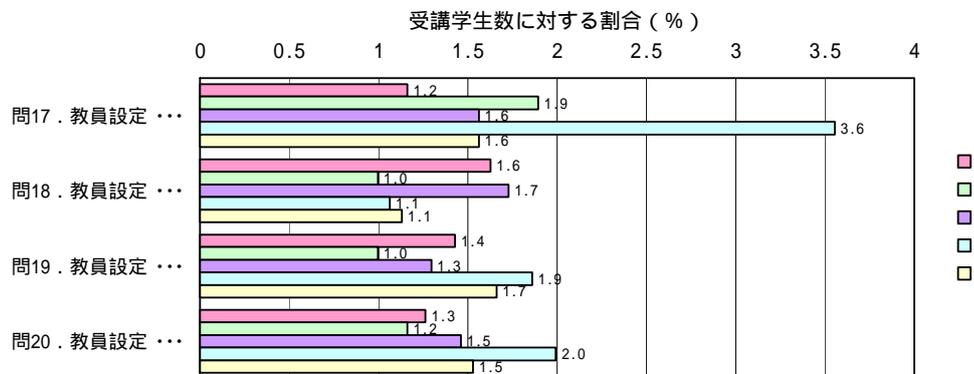
短期大学の全科目



問15.授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)

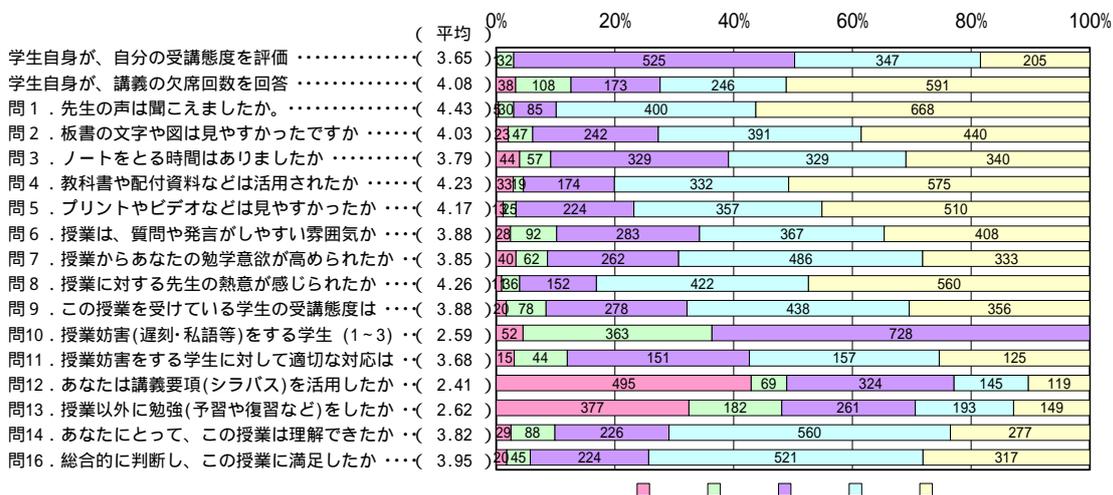


担当教員 自由設定設問

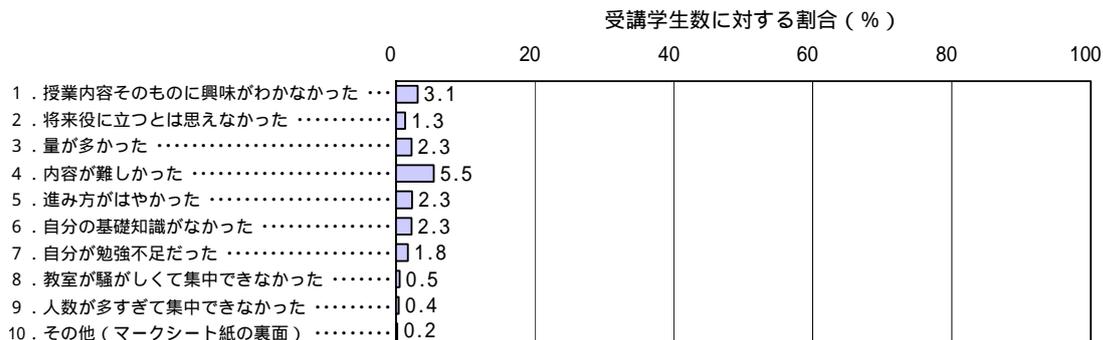


生活デザイン学科

アンケート集計結果 (数値は票数)

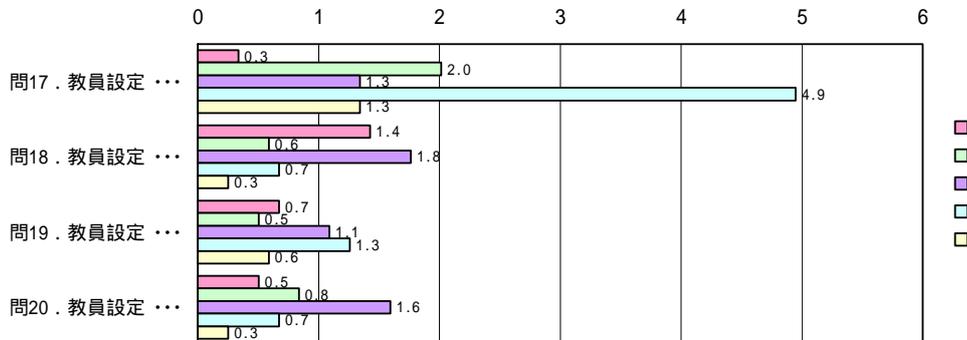


問15. 授業が理解できなかった理由 (問14で の場合、複数回答可)



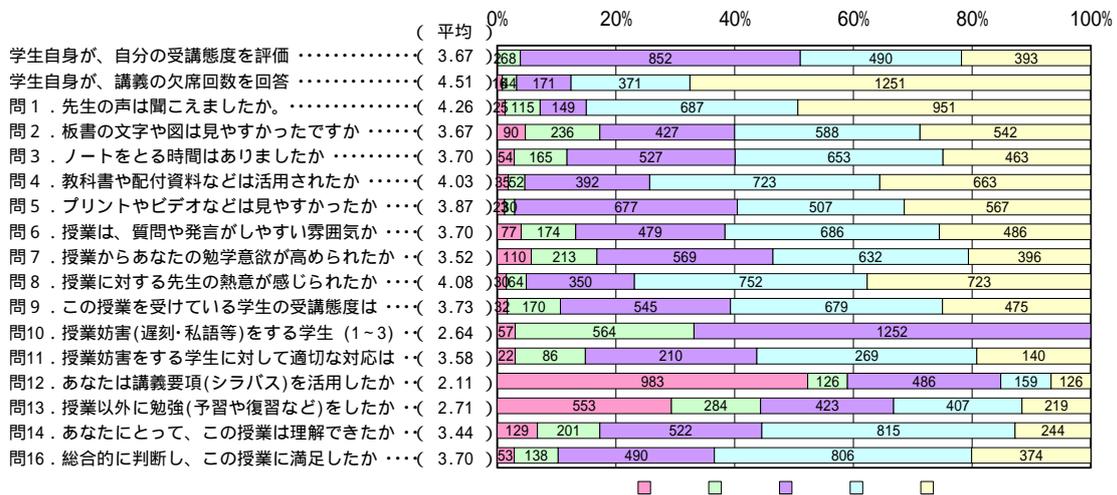
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合 (%)

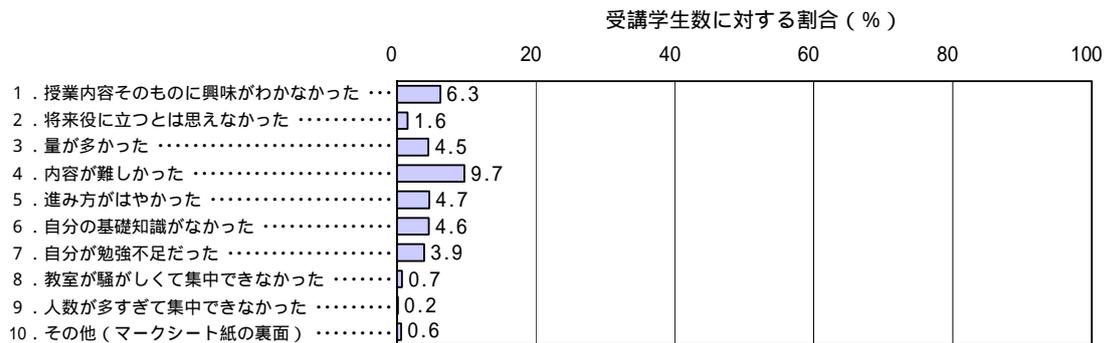


食物栄養学科

アンケート集計結果 (数値は票数)

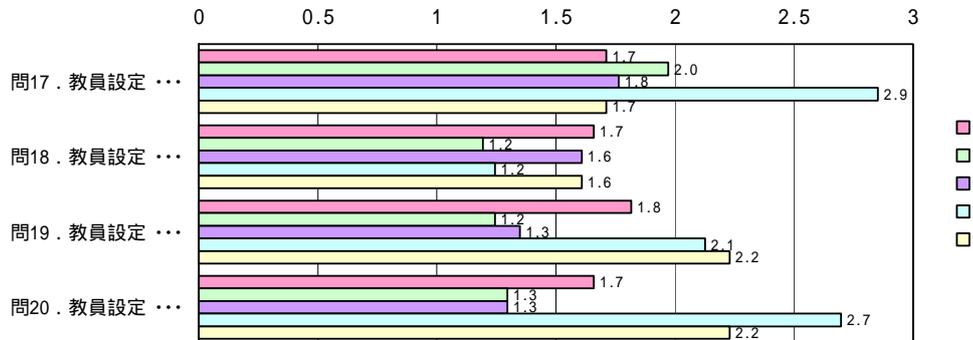


問15.授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)



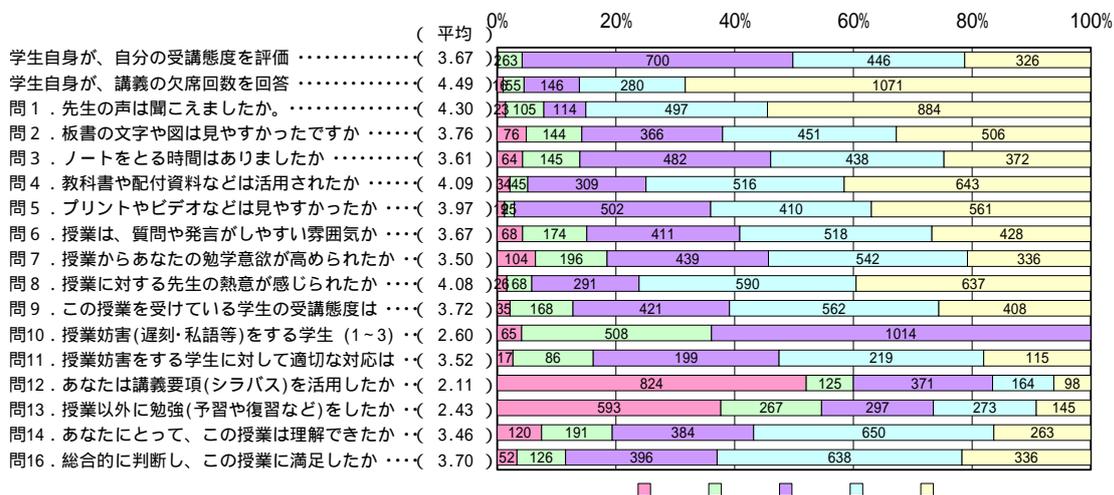
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合 (%)

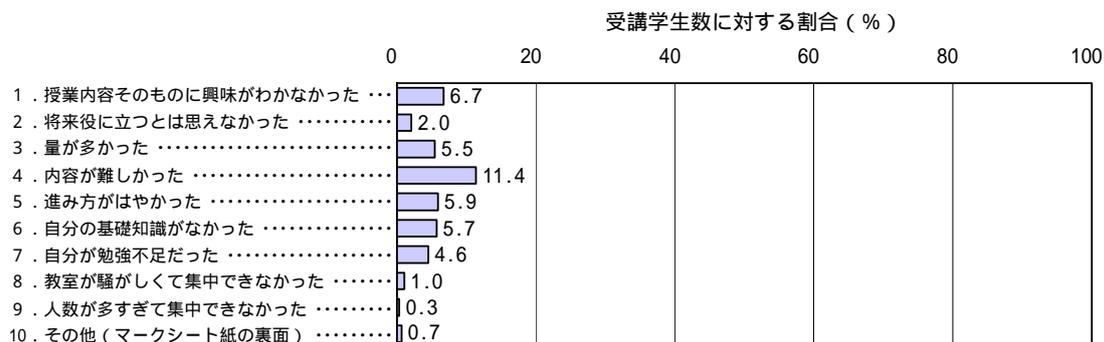


1年生科目

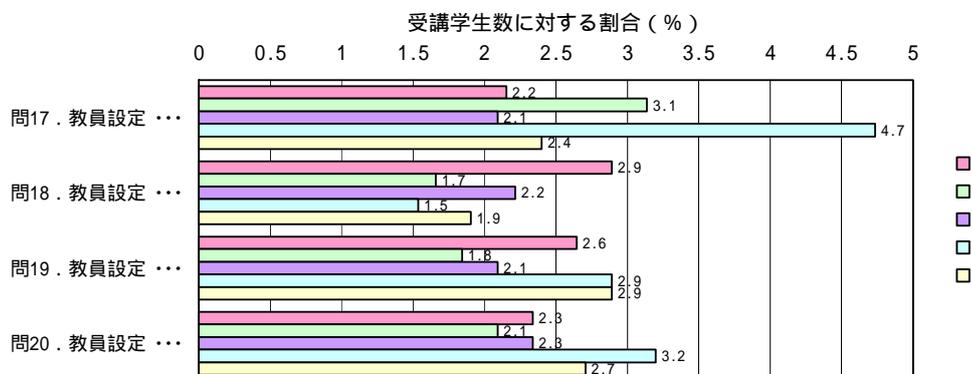
アンケート集計結果 (数値は票数)



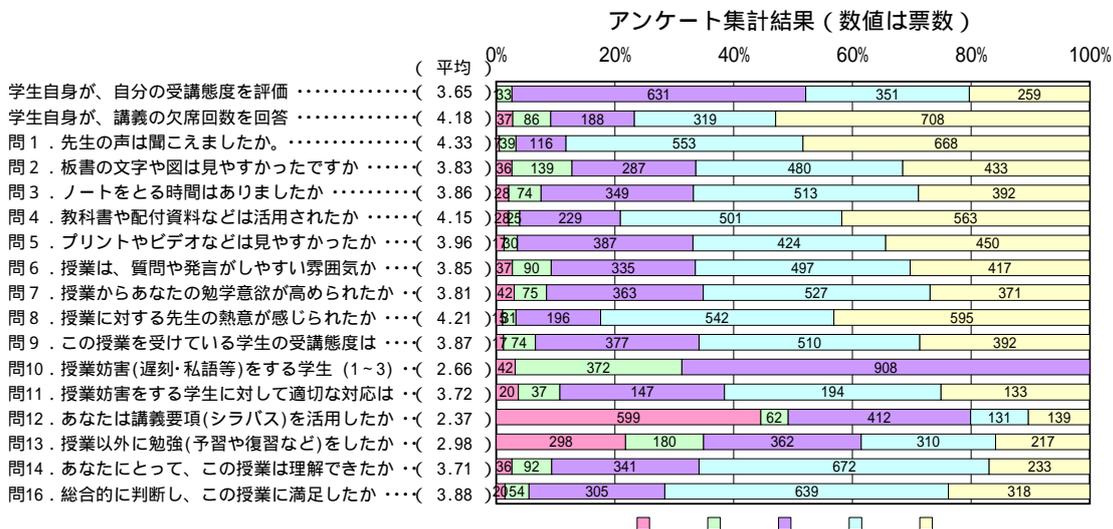
問15.授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)



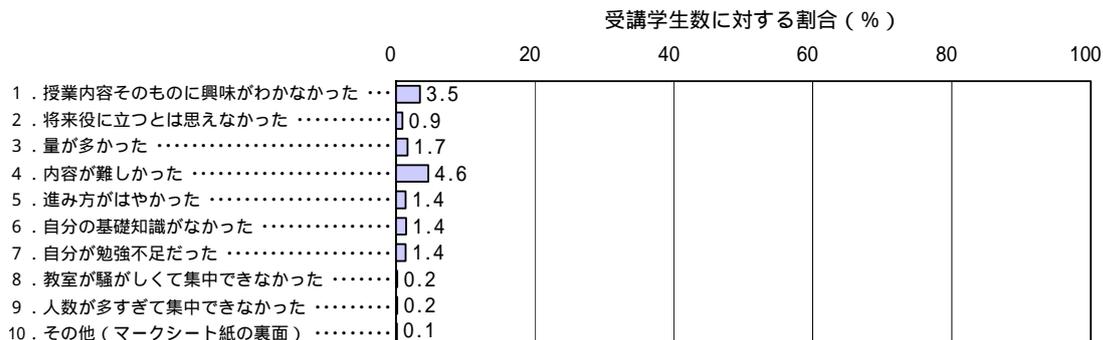
担当教員 自由設定設問



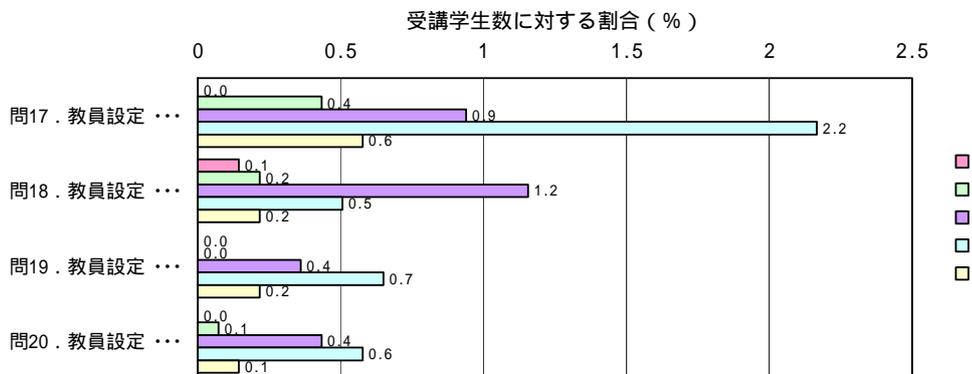
2年生科目



問15.授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)

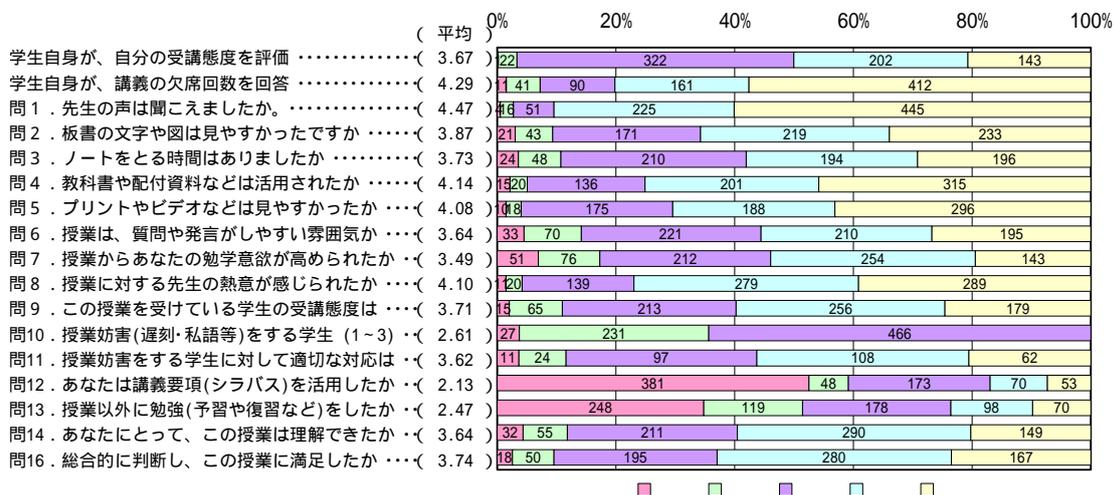


担当教員 自由設定設問

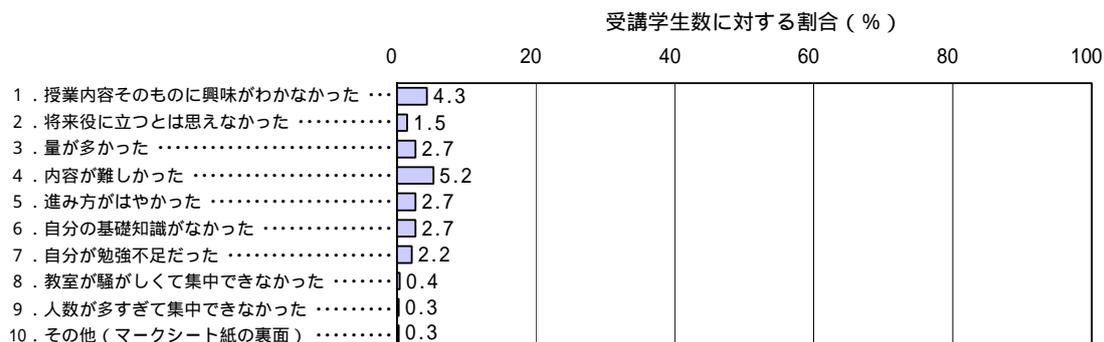


教養科目

アンケート集計結果（数値は票数）

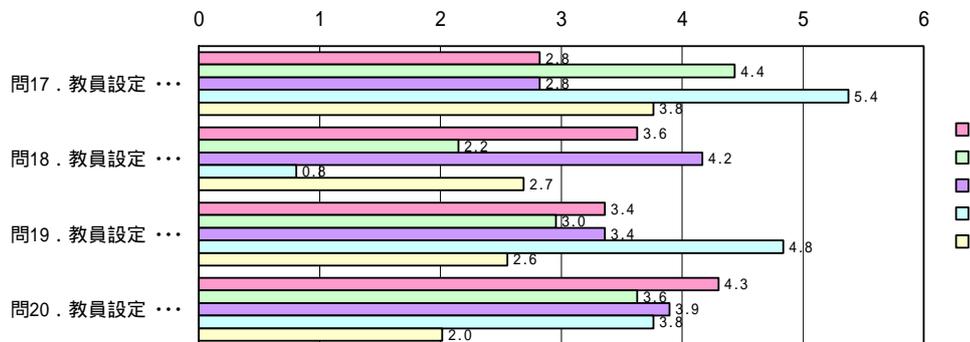


問15.授業が理解できなかった理由（問14で「いいえ」の場合、複数回答可）



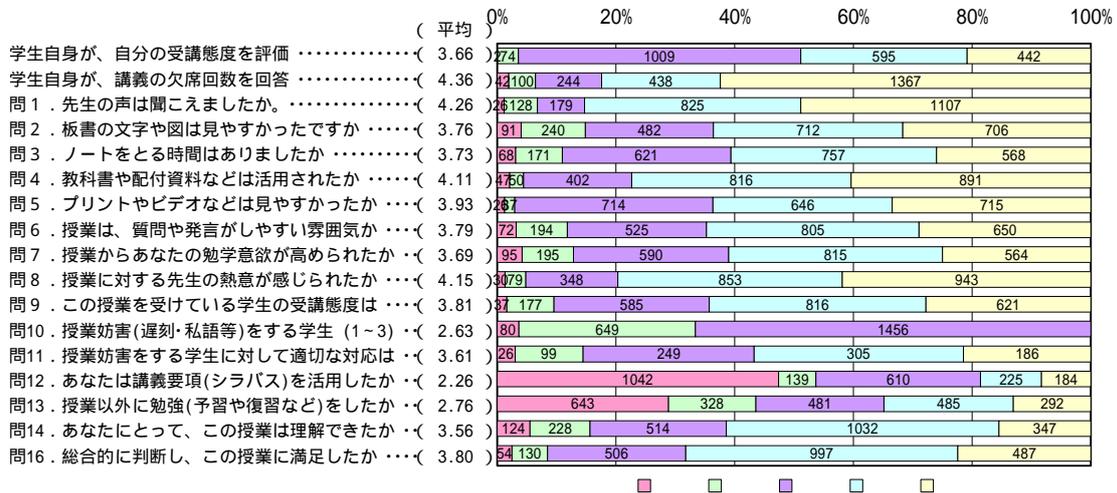
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合（%）

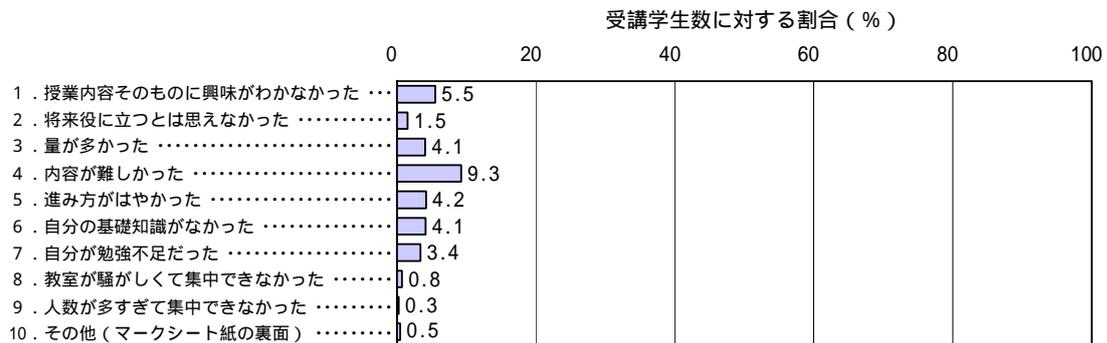


専門科目

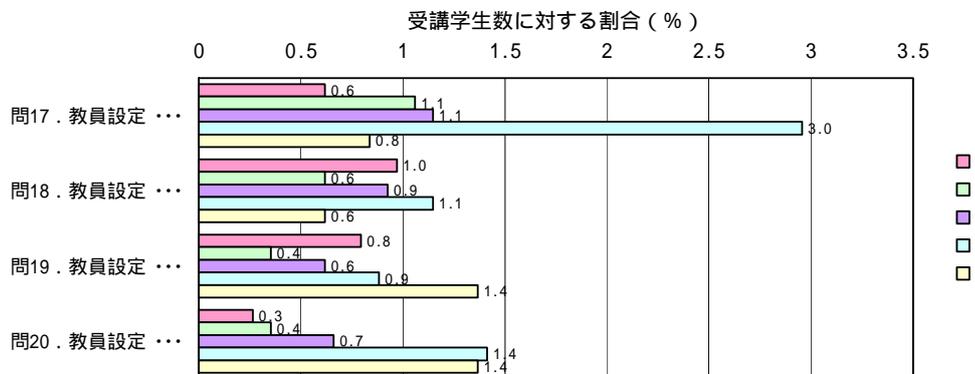
アンケート集計結果 (数値は票数)



問15. 授業が理解できなかった理由 (問14で の場合、複数回答可)



担当教員 自由設定設問



資料 2

第4回FD研修会 参加者アンケート集計結果

2. 第4回FD研修会参加者アンケート集計結果

. 開催日・出席者数

開催日	平成20年8月26日(火)	内訳	短期大学教員	26名
出席者数	33名		金沢学院職員	5名
			その他教員	2名

. アンケート内容と集計結果

1. 今後、先生の授業改善に向けて実施したいと思われる事項を、下記の事項から選んで、その番号を複数個選んで、記入してください。

アンケート項目	選択数					総数	順位	分析結果	
	第一	第二	第三	第四	第五			重度	順位
(1) 学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい。	20	1	1	0	0	22	1	107	1
(2) 社会と連携し、現場感覚を導入した授業をしたい。	2	0	0	1	1	4	6	13	6
(3) 対話を重視した授業を徹底したい。	0	4	3	1	0	8	3	27	3
(4) 授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい。	0	12	5	0	0	17	2	63	2
(5) 教室外での事前・事後学習指導を徹底したい。	0	2	2	1	0	5	5	16	4
(6) 授業で獲得できる能力、授業価値の説明を徹底したい。	0	0	3	3	0	6	4	15	5
(7) 授業の評価結果を学生にフィードバックしたい。	0	0	1	2	1	4	6	8	7
合計	22	19	15	8	2	66			

(重度 = 第一選択 × 5 + 第二選択 × 4 + 第三選択 × 3 + 第四選択 × 2 + 第五選択 × 1)

2. 授業でITを使用しておられますか。

アンケート項目	選択数
(1) 大いに使用している	3
(2) 使用している	8
(3) 殆ど使用していない	11
合計	22

3. 研修会でどのような事項を議論することをご希望されますか。

- ・ 授業紹介・授業における工夫・学外実習の報告
- ・ 意欲のない学生のモチベーション(学習意欲)を高めるための教育技法
- ・ 授業中や教師へのマナー
- ・ 学力差が大きい場合の教育技法
- ・ 礼節教育やマナー改善において、坐禅研修の効果などを追跡
- ・ 初年度教育の重要性
- ・ 全学的な意思統一の方法
- ・ アンケート結果をふまえた検討
- ・ GPAの試行結果
- ・ 出口重視での私学経営の成り立ちについて
- ・ 研修会への大学教員の出席率の向上

4. 順位ソート

票数順位	
1	(1) 学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい。
2	(4) 授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい。
3	(3) 対話を重視した授業を徹底したい。
4	(6) 授業で獲得できる能力、授業価値の説明を徹底したい。
5	(5) 教室外での事前・事後学習指導を徹底したい。
6	(2) 社会と連携し、現場感覚を導入した授業をしたい。
6	(7) 授業の評価結果を学生にフィードバックしたい。

重度順位	
1	(1) 学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい。
2	(4) 授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい。
3	(3) 対話を重視した授業を徹底したい。
4	(5) 教室外での事前・事後学習指導を徹底したい。
5	(6) 授業で獲得できる能力、授業価値の説明を徹底したい。
6	(2) 社会と連携し、現場感覚を導入した授業をしたい。
7	(7) 授業の評価結果を学生にフィードバックしたい。

【編集】 金沢学院短期大学 FD委員会
【発行日】平成21年3月1日